

第23回  
文京区政に関する世論調査  
報告書

< 要約版 >

平成 27 年 12 月

文 京 区



## はじめに

文京区では、平成22年6月に「文京区基本構想～歴史と文化と緑に育まれた、みんなが主役のまち『文の京』」を策定し、これに沿って総合的かつ計画的な区政運営を進めてまいりました。

来年度は、平成29年度を初年度とする新たな「基本構想実施計画」を策定してまいります。本計画は、基本構想に掲げた将来都市像の実現に向けた、第3期の計画であり、より総合的な見地から事業を効果的・効率的に進めていくための基盤整備を担う「行財政改革推進計画」を包含した計画として、区民の皆様との協働により策定してまいります。

このため、区では、区政を話し合う集い、広聴はがき、区民の声（ホームページ）など各種の広聴活動を行い、区民の皆様のご意見、ご要望の把握に努めております。

今回、この広聴活動の一環として、第23回の世論調査を実施いたしました。今回の調査では、「定住意向」「区政運営」「協働・協治」「防災・安全・まちづくり」「コミュニティ」「子育て・教育」「高齢者」「消費者相談」「文化・スポーツ振興」「循環型社会」「議会」「広聴」の12項目について調査しました。この調査結果につきましては、今後の区政運営の貴重な基礎資料として活用させていただきます。

おわりに、調査にご協力いただきました区民の皆様にご心からお礼申し上げます。

平成27年12月

文京区長 成澤 廣修



# 目 次

## I 調査の概要

1 調査の目的	1
2 調査の内容	1
3 調査の設計	1
4 回収結果	1
5 地区区分	2
6 集計にあたって	2
7 分析にあたって	3
8 母集団との比較	3
9 回答者の特性	4

## II 調査結果の分析

1 定住意向	5
1-1 居住年数	5
1-2 定住・転出意向	6
1-3 住み続けたい理由	7
2 区政運営	8
2-1 満足に感じている区の施策	8
2-2 不満に感じている区の施策	9
2-3 さらに力を入れてほしい区の施策	10
2-4 区の財政状況に対する関心	11
2-5 区の財政状況に対する印象	12
2-6 財政の健全化を更に進めていくために必要なこと	13
3 協働・協治	14
3-1 参加している団体・組織・グループ	14
3-2 参加している団体・組織・グループの活動分野	15
3-3 今後参加してみたい地域活動	16
4 防災・安全・まちづくり	17
4-1 災害への備え	17
4-2 防災行政無線（屋外スピーカー）の認識状況	18
4-3 防災行政無線（屋外スピーカー）の使用方法	19
4-4 感震ブレーカーの設置状況	20
4-5 今後力を入れてほしい防犯対策事業	21
4-6 自転車の安全利用施策	22
4-7 シェアサイクル事業を行ううえで重要と思われること	23
4-8 周辺地域のまち並み・景観に対する満足度	24
4-9 文京区歩行喫煙等の禁止に関する条例の認知度	25

# 目 次

5	コミュニティ	26
5-1	町会・自治会への参加状況	26
5-2	町会・自治会活動への参加意向	27
5-3	町会・自治会に期待すること	28
5-4	国際化に対応していくために特に必要だと感じること	29
6	子育て・教育	30
6-1	子育て支援のために取り組むべき施策	30
6-2	子育て支援サービスの認知度・利用経験・今後の利用意向	31
6-3	青少年健全育成に関して地域の大人たちが行うべきこと	32
6-4	学校支援活動の認知度・今後の協力意向	33
7	高齢者	34
7-1	高齢者あんしん相談センターの認知度	34
7-2	高齢者あんしん相談センターの認知事業内容	35
8	消費者相談	36
8-1	消費者相談コーナーの認知・利用状況	36
9	文化・スポーツ振興	37
9-1	2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて 区民の関心・意識を高めるために期待する取組	37
9-2	2020年東京オリンピック・パラリンピック終了後に 残るレガシー（遺産）として期待するもの	38
9-3	普段の運動頻度	39
10	循環型社会	40
10-1	「2R」推進のために区が重点的に行うべきこと	40
11	議会	41
11-1	区議会活動の認知媒体	41
11-2	区議会のホームページの閲覧状況	42
11-3	区議会の活動として期待すること	43
12	広聴	44
12-1	区役所本庁の窓口の利用状況	44
12-2	区役所本庁窓口での対応職員の印象	45

# I 調査の概要

## 1 調査の目的

本調査は、区民の区政に対する意識や意向、意見や要望等を統計的手法によつて的確に把握することを目的として行った。

## 2 調査の内容

第23回文京区政に関する世論調査は、「区政全般」をテーマとし、次の12項目について調査した。

- |                 |               |
|-----------------|---------------|
| (1) 定住意向        | (7) 高齢者       |
| (2) 区政運営        | (8) 消費者相談     |
| (3) 協働・協治       | (9) 文化・スポーツ振興 |
| (4) 防災・安全・まちづくり | (10) 循環型社会    |
| (5) コミュニティ      | (11) 議会       |
| (6) 子育て・教育      | (12) 広聴       |

## 3 調査の設計

- |            |                                    |
|------------|------------------------------------|
| (1) 調査地域   | 文京区全域                              |
| (2) 調査対象   | 文京区在住の満20歳以上の個人（住民基本台帳による）         |
| (3) 標本数    | 2,500サンプル                          |
| (4) 対象者の抽出 | 層化2段無作為抽出法（5地区に分類し対象者を抽出）          |
| (5) 調査方法   | [配布] 郵送配布<br>[回収] 郵送回収またはインターネット回答 |
| (6) 調査期間   | 平成27年8月20日（木）～9月4日（金）              |
| (7) 調査機関   | 株式会社 総合企画                          |

## 4 回収結果

### (1) 地区別

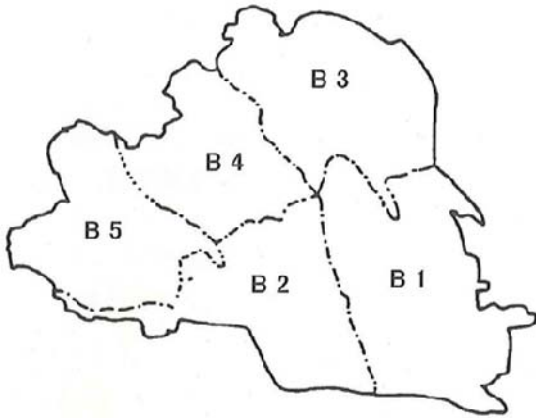
	満20歳以上人口（構成比）	標本数	有効回収数	有効回収率
全体	177,961 (100.0%)	2,500	1,196	47.8%
B1地区	42,844 (24.1%)	600	286	47.7%
B2地区	34,208 (19.2%)	475	224	47.2%
B3地区	45,152 (25.4%)	625	308	49.3%
B4地区	29,527 (16.6%)	425	197	46.4%
B5地区	26,230 (14.7%)	375	173	46.1%
地区不明	-	-	8	-

※満20歳以上人口：平成27年7月1日現在

### (2) 回収方法別

	有効回収数	（構成比）
全体	1,196	(100.0%)
郵送	976	(81.6%)
インターネット	215	(18.0%)
持参	5	(0.4%)

## 5 地区区分



地区	町名(丁目)
B 1	根津、弥生、本郷、湯島、西片、白山(1丁目)、向丘(1丁目)
B 2	後楽、春日、水道、小石川(1～4丁目)、関口(1丁目)、小日向(1丁目)、白山(2丁目)
B 3	千駄木、本駒込、向丘(2丁目)、白山(5丁目)
B 4	千石、白山(3・4丁目)、大塚(3・4丁目)、小石川(5丁目)
B 5	音羽、目白台、大塚(1・2・5・6丁目)、関口(2・3丁目)、小日向(2～4丁目)

## 6 集計にあたって

- (1) 図表中の「n」(number of caseの略)は、各設問の回答者数を示し、比率算出の基数である。
- (2) 集計は百分率とし、小数点第2位を四捨五入して算出した。したがって、回答比率を合計しても100.0%ちょうどにならず、1%の範囲で増減することがある。
- (3) 回答の比率(%)は、その設問の回答者数を基数として算出した。したがって、複数回答の設問は、すべての比率を合計すると100.0%を超えることがある。
- (4) 集計は、①単純集計、②フェイスシートとのクロス集計、③設問間のクロス集計の3種類を行った。
- (5) 標本誤差は回答者数と得られた結果の比率によって異なるが、層化二段無作為抽出法による場合の誤差(信頼度95%)は次の式によって得られる。

<標本誤差算出式>

$$b = 2 \sqrt{2 \times \frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

$b$  = 標本誤差 (二段抽出の場合)  
 $N$  = 母集団全体  
 $n$  = 比率算出の基数 (回答者数)  
 $P$  = 回答の比率

今回の調査結果の場合、誤差及び信頼の範囲は次ページの表のとおりであり、「ある設問の回答者数が1,196人で、その設問中の選択肢の回答比率が60%であった場合、その答比率の誤差の範囲は、最高でも±4.01である」というようにみる。



<標本誤差早見表> (信頼度：95%)

回答比率 (P) 基数 (n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
1,196	± 2.45	± 3.27	± 3.75	± 4.01	± 4.09
800	± 3.00	± 4.00	± 4.58	± 4.90	± 5.00
600	± 3.46	± 4.62	± 5.29	± 5.66	± 5.77
400	± 4.24	± 5.66	± 6.48	± 6.93	± 7.07
200	± 6.00	± 8.00	± 9.17	± 9.80	±10.00
100	± 8.49	±11.31	±12.96	±13.86	±14.14

(注) Nはnより非常に大きいため、 $\frac{N-n}{N-1} \approx 1$  とみなせるので、 $\frac{N-n}{N-1} = 1$  として計算した。

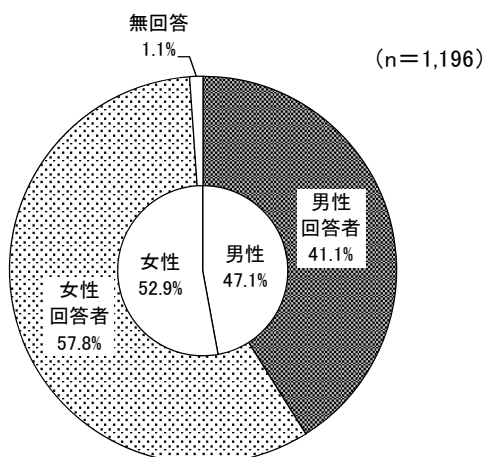
## 7 分析にあたって

- (1) グラフ・数表上の選択肢表記は、場合によっては語句を簡略化してある。
- (2) クロス結果の帯グラフや表について、表側（分析の軸）となる設問に「無回答」がある場合、これを表示しない。ただし、全体の件数には含めているので、表側（分析の軸）の件数の合計が、全体の件数と一致しないことがある。
- (3) 複数回答の設問におけるクロス結果の棒グラフは、上位10項目に限定している場合があり、その際、「その他」は対象から除き表示していない。
- (4) クロス集計時に、基数 (n) が小さい数字になる場合は誤差が大きいため注意が必要であり、コメントを省略していることがある。
- (5) ライフステージの分類は以下のとおりである。

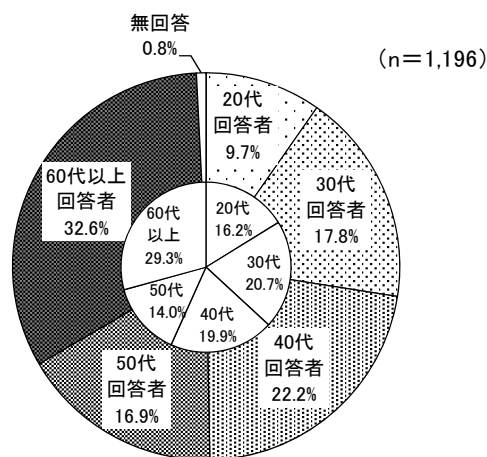
・ 独 身 期	： 40歳未満の独身者
・ 家 族 形 成 期	： 40歳未満の子どもがいない夫婦、 または一番上の子どもが就学前の人
・ 家 族 成 長 前 期	： 一番上の子どもが小・中学生の人
・ 家 族 成 長 後 期	： 一番上の子どもが高校・大学生の人
・ 家 族 成 熟 期	： 64歳以下で一番上の子どもが学校を卒業している人
・ 老 齢 期	： 65歳以上の人
・ そ の 他	： 40歳～64歳の独身者、40歳～64歳の子どもがいない夫婦など

## 8 母集団との比較

(1) 性別構成



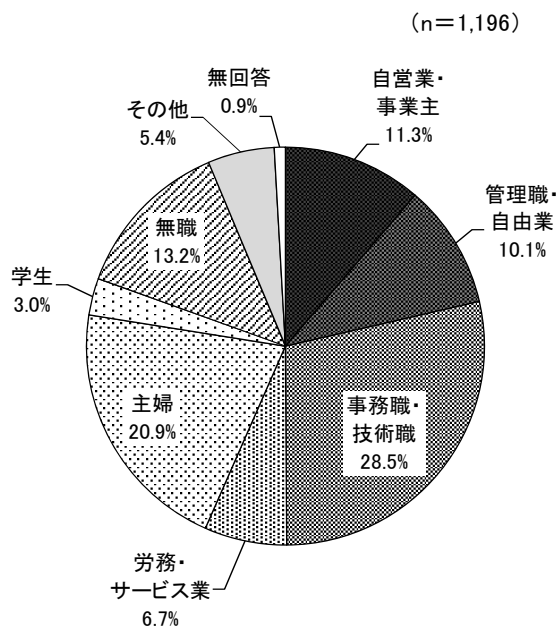
(2) 年代構成



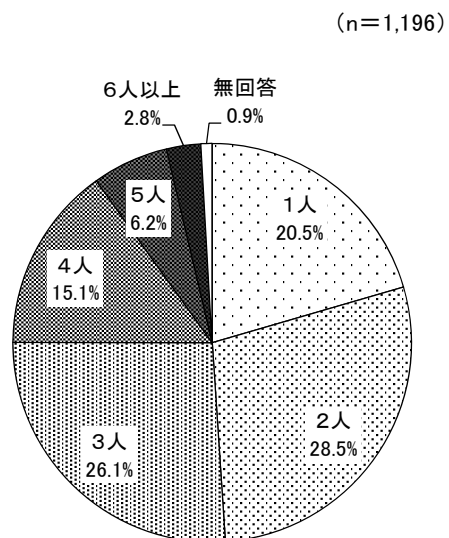
(注) 円内は母集団、外円は調査回答者の構成比を示している。

## 9 回答者の特性

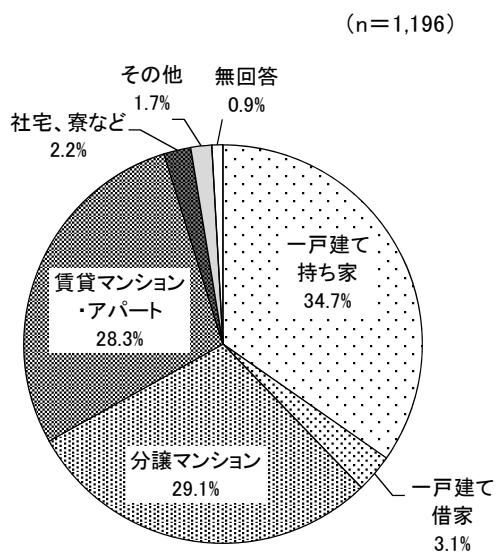
(1) 職業



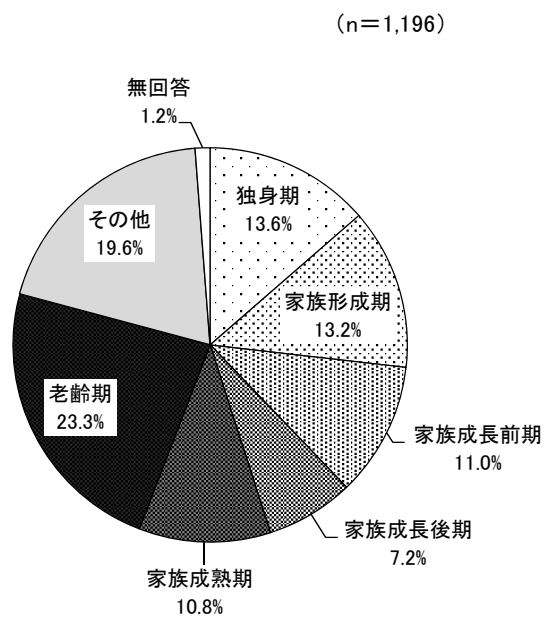
(2) 家族人数



(3) 居住形態



(4) ライフステージ



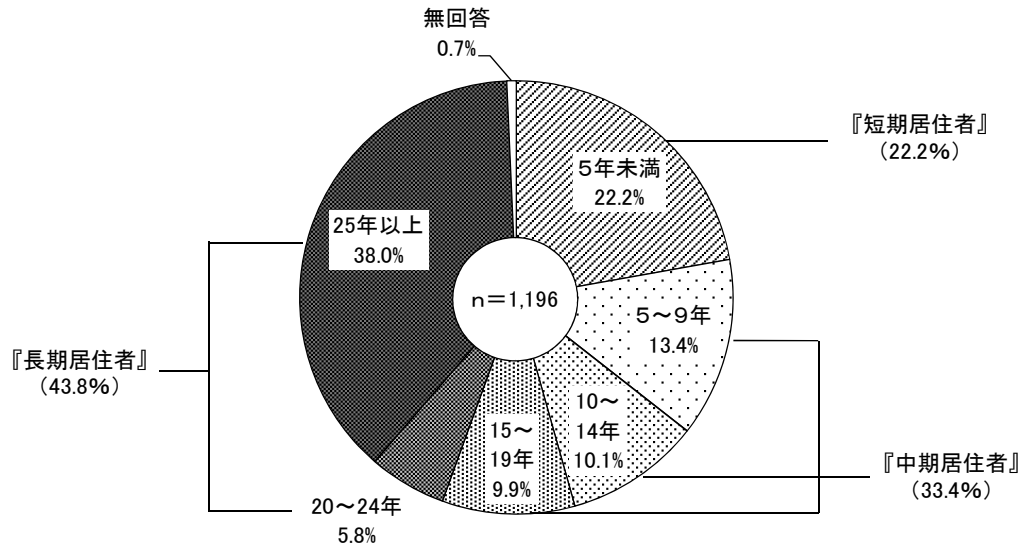
## Ⅱ 調査結果の分析

### 1 定住意向

#### 1-1 居住年数

問1 あなたは、文京区にお住まいになって何年になりますか。(○は1つ)

図1-1 居住年数

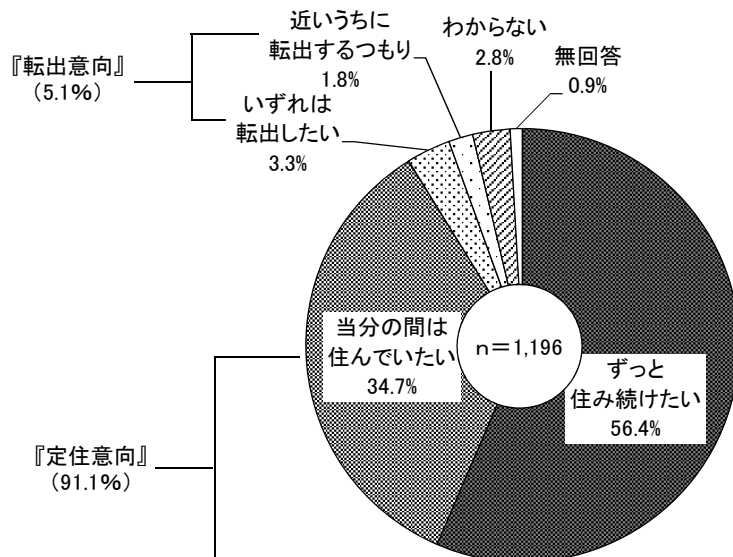


居住年数をたずねたところ、「5年未満」の『短期居住者』（22.2%）が2割台、「5～9年」（13.4%）、「10～14年」（10.1%）、「15～19年」（9.9%）を合わせた『中期居住者』（33.4%）が3割台、「20～24年」（5.8%）、「25年以上」（38.0%）を合わせた『長期居住者』（43.8%）が4割を超えている。（図1-1）

## 1-2 定住・転出意向

問2 あなたは、これからも文京区に住み続けたいと思いますか。(○は1つ)

図1-2 定住・転出意向



定住・転出意向をたずねたところ、これからも文京区に「ずっと住み続けたい」(56.4%)が5割半ばを占め、「当分の間は住んでいたい」(34.7%)を合わせた『定住意向』(91.1%)が9割を超えている。一方、「いずれは転出したい」(3.3%)、「近いうちに転出するつもり」(1.8%)を合わせた『転出意向』(5.1%)は1割に満たない。(図1-2)

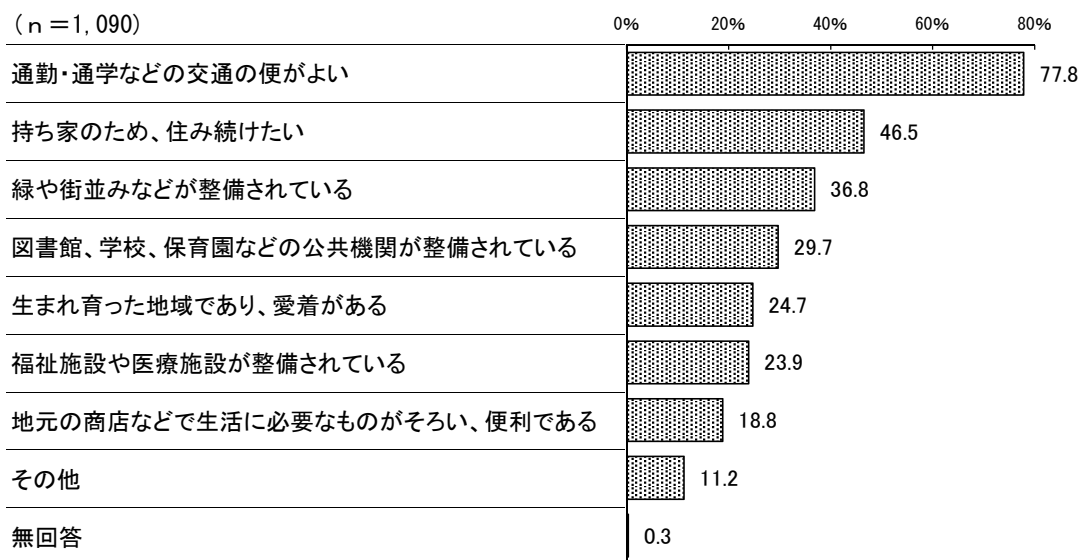
### 1-3 住み続けたい理由

【問2で「1. ずっと住み続けたい」または「2. 当分の間は住んでいたい」と回答した方に】

問2-1 住み続けたいと思う理由は何ですか。

次の中からあてはまるものを3つまで選んで、右の欄に番号をご記入ください。

図1-3 住み続けたい理由



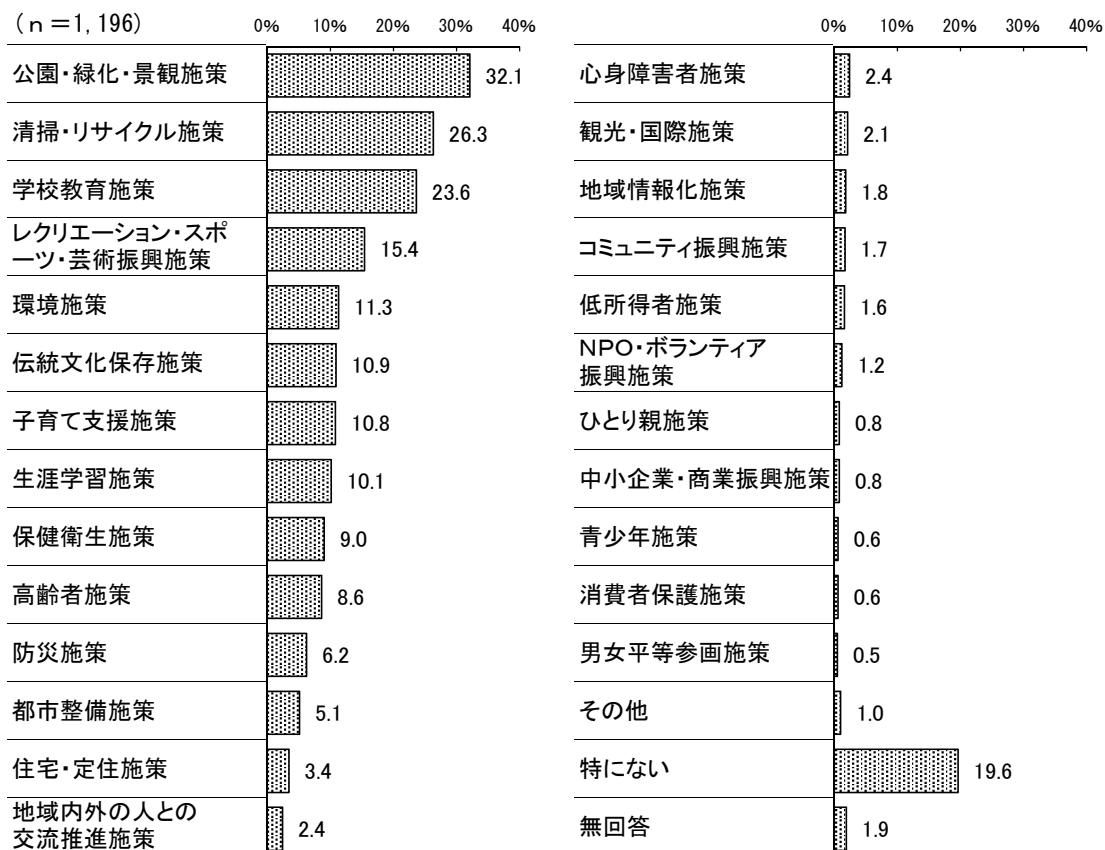
これからも文京区に「ずっと住み続けたい」または「当分の間は住んでいたい」と答えた方（1,090人）に、住み続けたい理由をたずねたところ、「通勤・通学などの交通の便がよい」（77.8%）が8割近くと最も多く、次いで「持ち家のため、住み続けたい」（46.5%）、「緑や街並みなどが整備されている」（36.8%）、「図書館、学校、保育園などの公共機関が整備されている」（29.7%）などの順となっている。（図1-3）

## 2 区政運営

### 2-1 満足に感じている区の施策

問3 次の区の施策のうち、あなたが満足に感じているものはどれですか。  
次の中からあてはまるものを3つまで選んで、右の欄に番号をご記入ください。

図2-1 満足に感じている区の施策

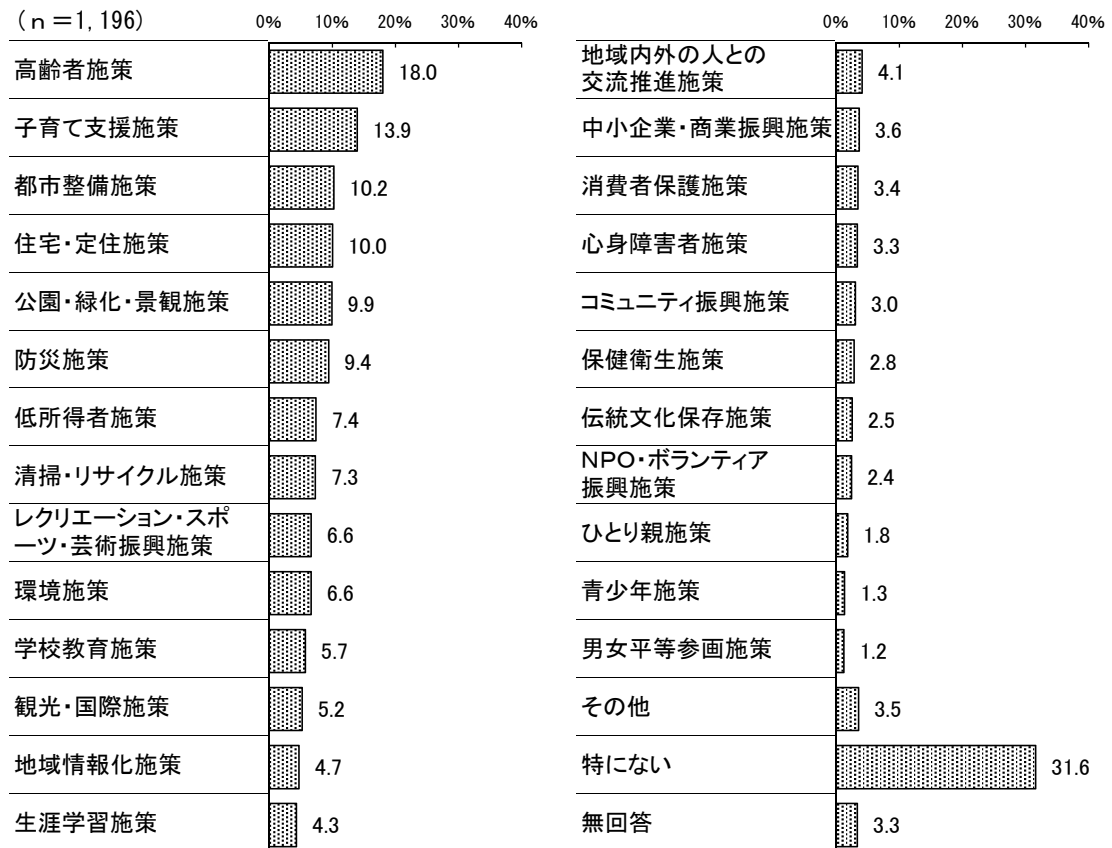


満足を感じる区の施策についてたずねたところ、「公園・緑化・景観施策」(32.1%)が3割を超え最も多く、次いで「清掃・リサイクル施策」(26.3%)、「学校教育施策」(23.6%)、「レクリエーション・スポーツ・芸術振興施策」(15.4%)などの順となっている。(図2-1)

## 2-2 不満に感じている区の施策

問4 次の区の施策のうち、あなたが不満に感じているものはどれですか。  
次の中からあてはまるものを3つまで選んで、右の欄に番号をご記入ください。

図2-2 不満に感じている区の施策

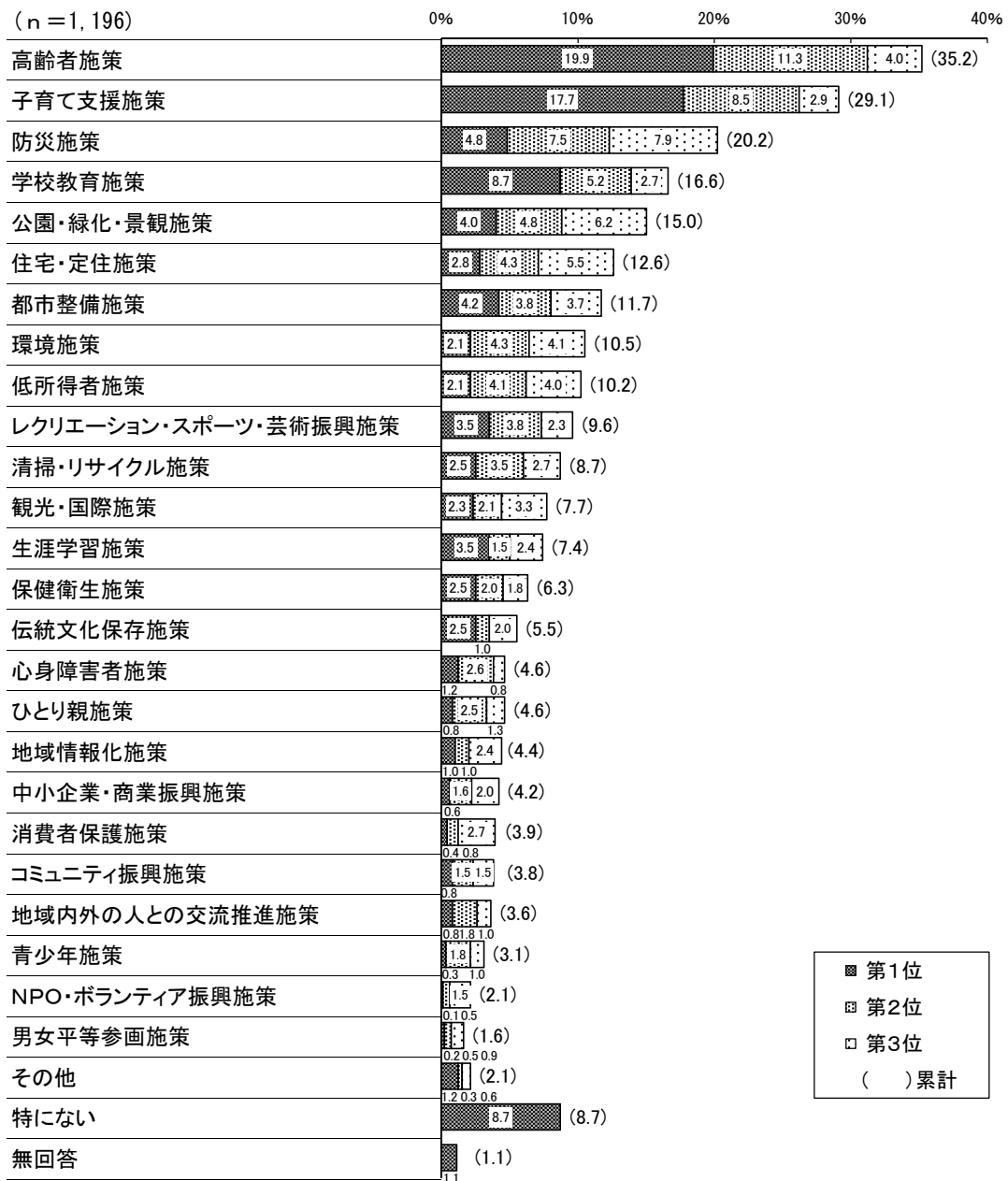


不満を感じる区の施策についてたずねたところ、「高齢者施策」(18.0%)が2割近くと最も多く、次いで「子育て支援施策」(13.9%)、「都市整備施策」(10.2%)、「住宅・定住施策」(10.0%)などが1割台が続いている。「公園・緑化・景観施策」(9.9%)以下は1割未満となっており、「特にない」(31.6%)が3割を超えている。(図2-2)

## 2-3 さらに力を入れてほしい区の施策

問5 次の区の施策のうち、あなたがさらに力を入れるべきだと考えるものはどれですか。順位をつけて3つまで選び、下の欄に番号をご記入ください。

図2-3 さらに力を入れてほしい区の施策



さらに力を入れてほしい区の施策についてたずねたところ、第1位は「高齢者施策」(19.9%)が2割と最も多く、次いで「子育て支援施策」(17.7%)、「学校教育施策」(8.7%)、「防災施策」(4.8%)、「都市整備施策」(4.2%)などの順となっている。

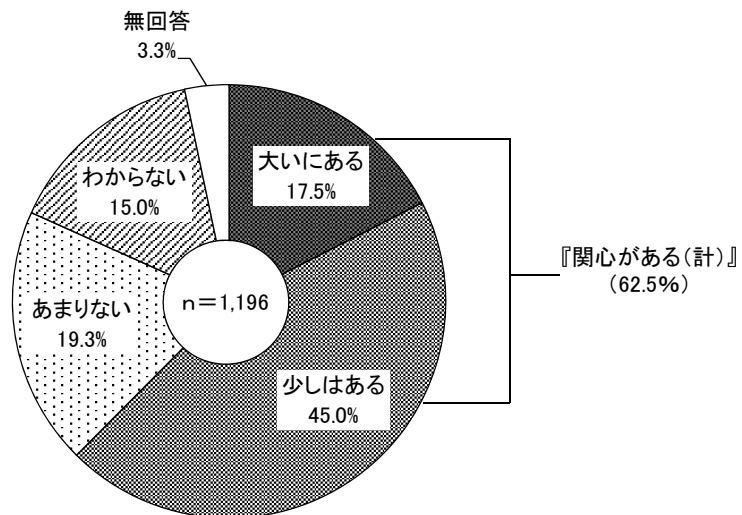
第1位から第3位までを合計すると、「高齢者施策」(35.2%)が3割半ばと最も多く、次いで「子育て支援施策」(29.1%)、「防災施策」(20.2%)、「学校教育施策」(16.6%)、「公園・緑化・景観施策」(15.0%)などの順となっている。(図2-3)



## 2-4 区の財政状況に対する関心

問6 あなたは、区の財政状況に関心がありますか。(○は1つ)

図2-4 区の財政状況に対する関心



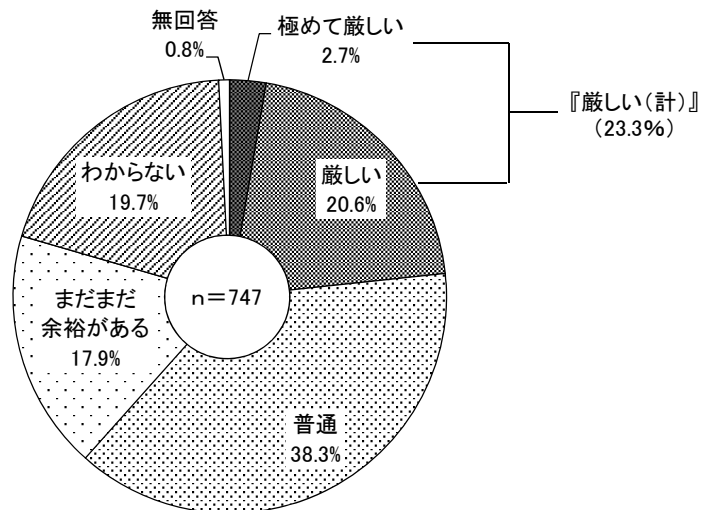
区の財政に対する関心についてたずねたところ、「大いにある」(17.5%)と「少しはある」(45.0%)を合わせた『関心がある(計)』(62.5%)は6割を超えている。一方、「あまりない」(19.3%)はほぼ2割、「わからない」(15.0%)は1割半ばとなっている。(図2-4)

## 2-5 区の財政状況に対する印象

【問6で「1. 大いにある」または「2. 少しはある」と回答した方に】

問6-1 区の財政状況について、どのような印象をお持ちですか。(○は1つ)

図2-5 区の財政状況に対する印象



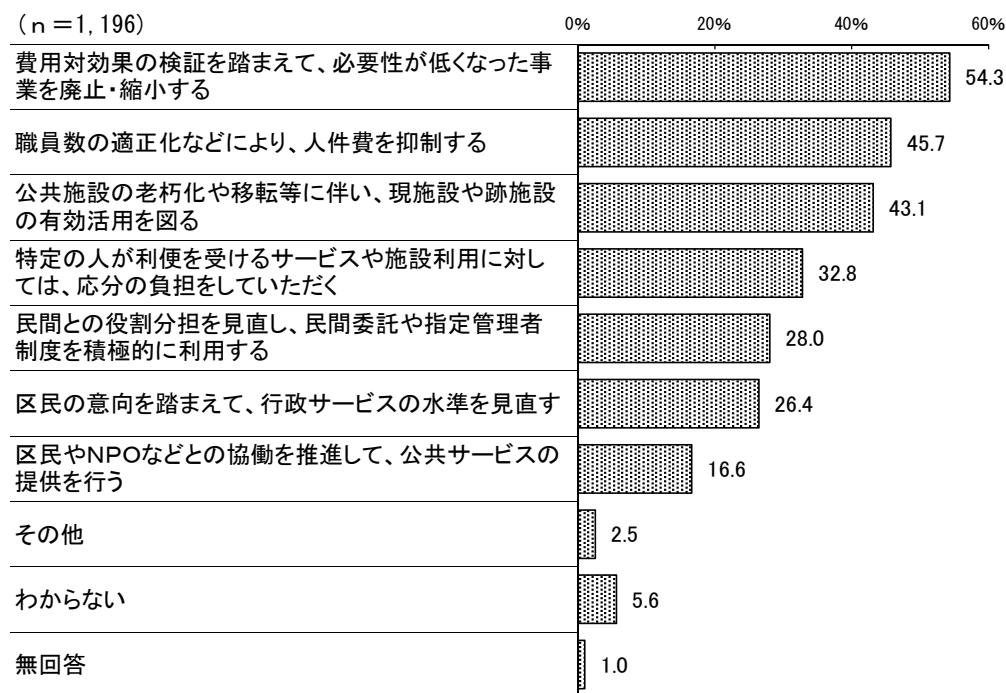
区の財政状況に対する関心が「大いにある」または「少しはある」と答えた人(747人)に、区の財政状況に対する印象についてたずねたところ、「普通」(38.3%)が4割近くと最も多くなっている。「極めて厳しい」(2.7%)と「厳しい」(20.6%)を合わせた『厳しい(計)』(23.3%)が2割を超え、「まだまだ余裕がある」(17.9%)が2割近くとなっている。

(図2-5)

## 2-6 財政の健全化を更に進めていくために必要なこと

問7 財政の健全化を更に進めていくためには、今後どのようなことに力を入れていくべきだと考えますか。次の中からあてはまるものを3つまで選んで、右の欄に番号をご記入ください。

図2-6 財政の健全化を更に進めていくために必要なこと



財政の健全化を更に進めていくために必要なことについてたずねたところ、「費用対効果の検証を踏まえて、必要性が低くなった事業を廃止・縮小する」(54.3%)が5割半ばと最も多く、次いで「職員数の適正化などにより、人件費を抑制する」(45.7%)、「公共施設の老朽化や移転等に伴い、現施設や跡施設の有効活用を図る」(43.1%)、「特定の人が利便を受けるサービスや施設利用に対しては、応分の負担をしていただく」(32.8%)などの順となっている。

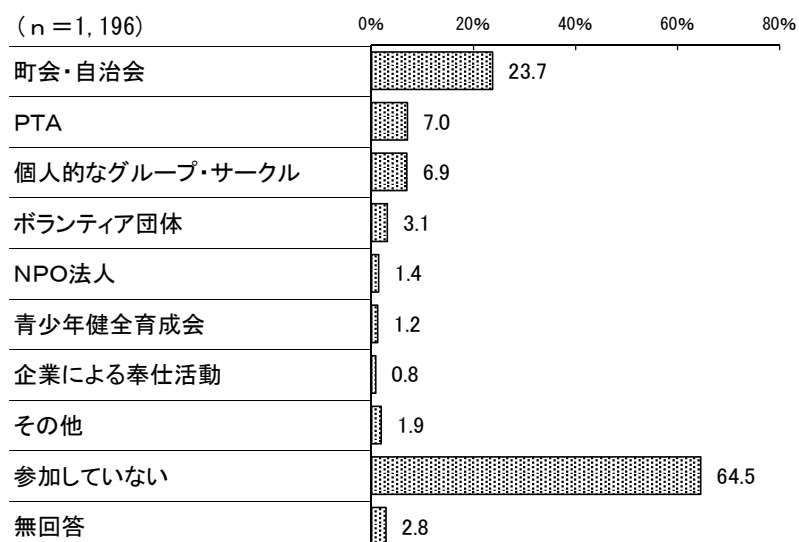
(図2-6)

### 3 協働・協治

#### 3-1 参加している団体・組織・グループ

問8 区内でNPO、ボランティア団体及び町会・自治会等の地域に貢献する活動を行っている団体、組織やグループの活動に参加していますか。  
次の中から参加しているものをすべてお選びください。(〇はいくつでも)

図3-1 参加している団体・組織・グループ



参加している団体・組織・グループについてたずねたところ、「町会・自治会」(23.7%)が2割を超え最も多く、次いで「PTA」(7.0%)、「個人的なグループ・サークル」(6.9%)、「ボランティア団体」(3.1%)などの順となっているが、「町会・自治会」を除き、いずれも1割未満となっている。一方、「参加していない」(64.5%)は6割半ばとなっている。(図3-1)

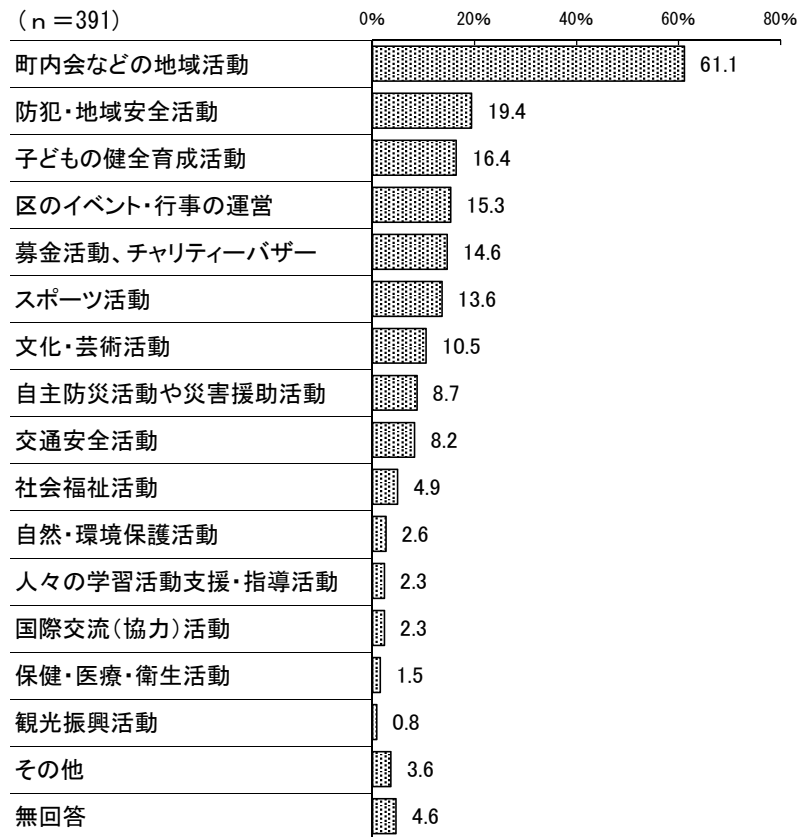
### 3-2 参加している団体・組織・グループの活動分野

【問8で「1.」から「8.」と回答した方に】

問8-1 その活動はどのような分野ですか。

次の中から参加しているものをすべてお選びください。(〇はいくつでも)

図3-2 参加している団体・組織・グループの活動分野

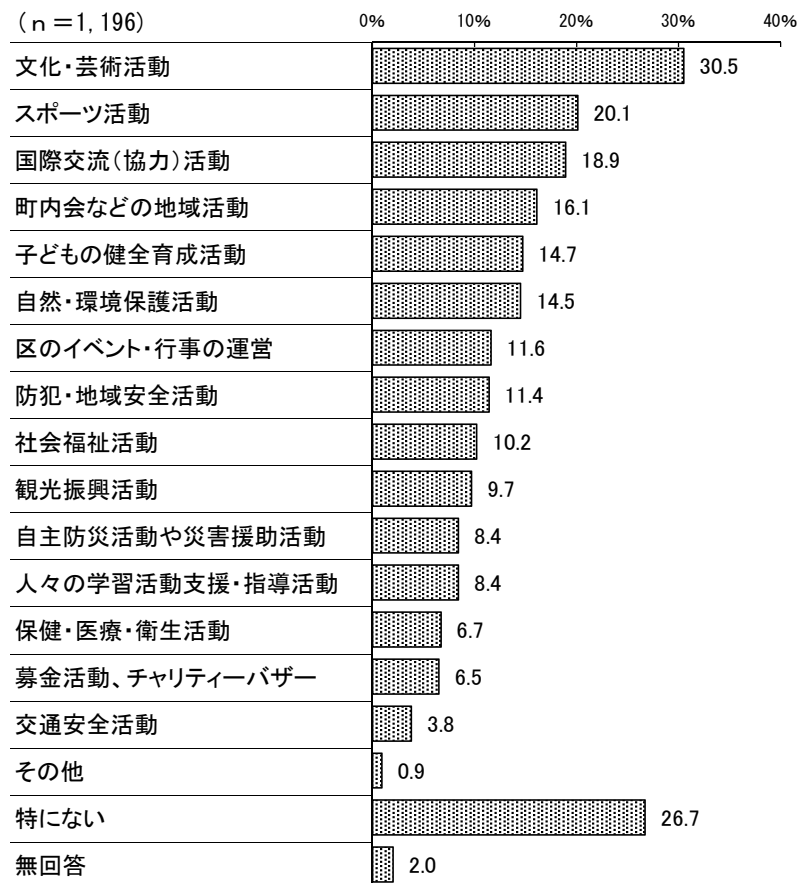


団体・組織・グループの活動に参加していると答えた方(391人)に、参加している団体・組織・グループの活動分野についてたずねたところ、「町内会などの地域活動」(61.1%)がほぼ6割と最も多く、次いで「防犯・地域安全活動」(19.4%)、「子どもの健全育成活動」(16.4%)、「区のイベント・行事の運営」(15.3%)、「募金活動、チャリティーバザー」(14.6%)、「スポーツ活動」(13.6%)などの順となっている。(図3-2)

### 3-3 今後参加してみたい地域活動

問9 今後参加してみたいと思う地域での活動はどのような分野ですか。  
次の中から参加してみたいものをすべてお選びください。(〇はいくつでも)

図3-3 今後参加してみたい地域活動



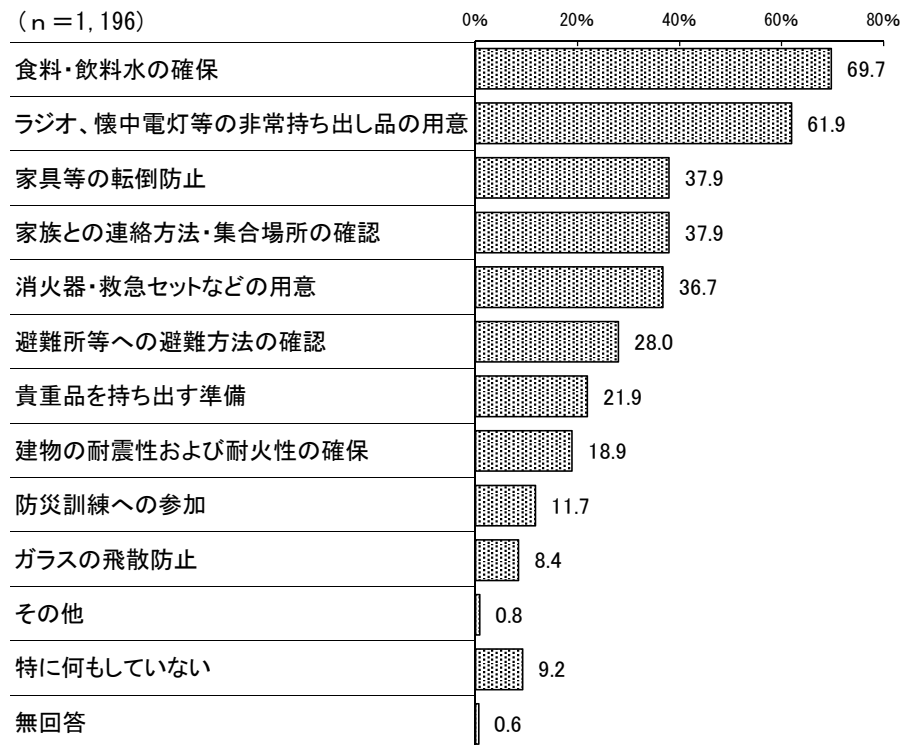
今後参加してみたい地域活動についてたずねたところ、「文化・芸術活動」(30.5%)が3割と最も多く、次いで「スポーツ活動」(20.1%)、「国際交流(協力)活動」(18.9%)、「町内会などの地域活動」(16.1%)、「子どもの健全育成活動」(14.7%)、「自然・環境保護活動」(14.5%)などの順となっている。(図3-3)

## 4 防災・安全・まちづくり

### 4-1 災害への備え

問10 あなたは、災害に備えてどのような対策をとっていますか。  
次の中からいくつでもお選びください。(〇はいくつでも)

図4-1 災害への備え

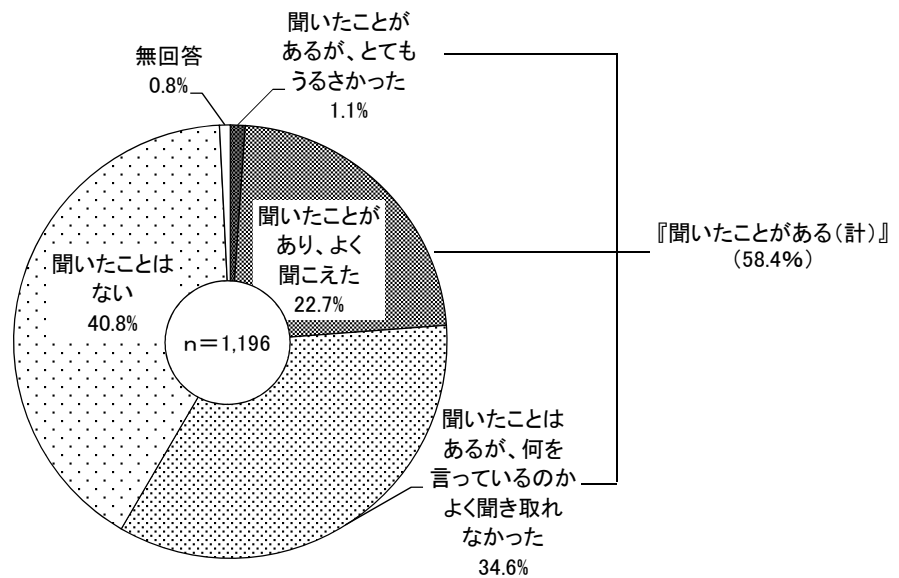


防災への備えについてたずねたところ、「食料・飲料水の確保」(69.7%)がほぼ7割と最も多く、次いで「ラジオ、懐中電灯等の非常持ち出し品の用意」(61.9%)、「家具等の転倒防止」、「家族との連絡方法・集合場所の確認」(ともに37.9%)、「消火器・救急セットなどの用意」(36.7%)などの順となっている。(図4-1)

#### 4-2 防災行政無線（屋外スピーカー）の認識状況

問11 区では災害時に災害情報等を広域的に伝達する目的で、区内学校や公園等に「防災行政無線（屋外スピーカー）」を設置しています。防災訓練時や試験放送等で年に数回、「防災行政無線（屋外スピーカー）」を使用し放送を行っています。あなたは聞いたことがありますか。（○は1つ）

図4-2 防災行政無線（屋外スピーカー）の認識状況



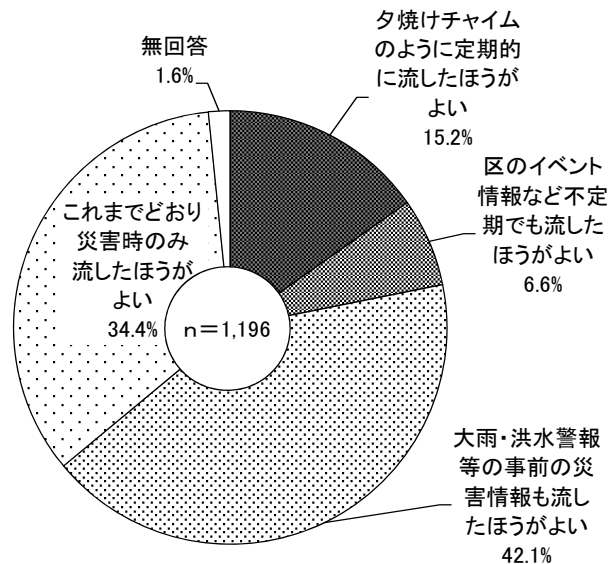
防災行政無線（屋外スピーカー）の認識状況についてたずねたところ、「聞いたことがあり、よく聞こえた」（22.7%）が2割台、「聞いたことはあるが、何を言っているのか聞き取れなかった」（34.6%）が3割半ばとなっている。これに、「聞いたことがあるが、とてもうるさかった」（1.1%）を合わせた『聞いたことがある（計）』（58.4%）は6割近くとなっている。一方、「聞いたことはない」（40.8%）がほぼ4割となっている。（図4-2）



#### 4-3 防災行政無線（屋外スピーカー）の使用方法

問12 区では、緊急性を強調するため、「防災行政無線（屋外スピーカー）」を災害時のみ使用するよう考えています。「防災行政無線（屋外スピーカー）」の使用方法について、あなたがもっとも適切と思うものを次の中からいずれか1つお選びください。（○は1つ）

図4-3 防災行政無線（屋外スピーカー）の使用方法

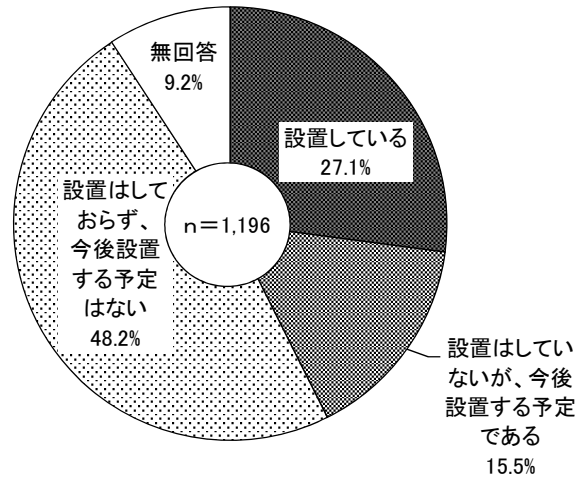


防災行政無線（屋外スピーカー）の使用方法についてたずねたところ、「大雨・洪水警報等の事前の災害情報も流したほうがよい」（42.1%）が4割を超え最も多く、次いで「これまでどおり災害時のみ流したほうがよい」（34.4%）が3割半ばとなっている。一方、「夕焼けチャイムのように定期的に流したほうがよい」（15.2%）は1割半ば、「区のイベント情報など不定期でも流したほうがよい」（6.6%）は1割未満となっている。（図4-3）

#### 4-4 感震ブレーカーの設置状況

問13 地震による電気火災を防ぐため、設定値以上の震度の地震発生時に自動的に電気の供給を遮断する「感震ブレーカー」の設置が推奨されています。あなたのご自宅では「感震ブレーカー」の設置を行っていますか。(○は1つ)

図4-4 感震ブレーカーの設置状況



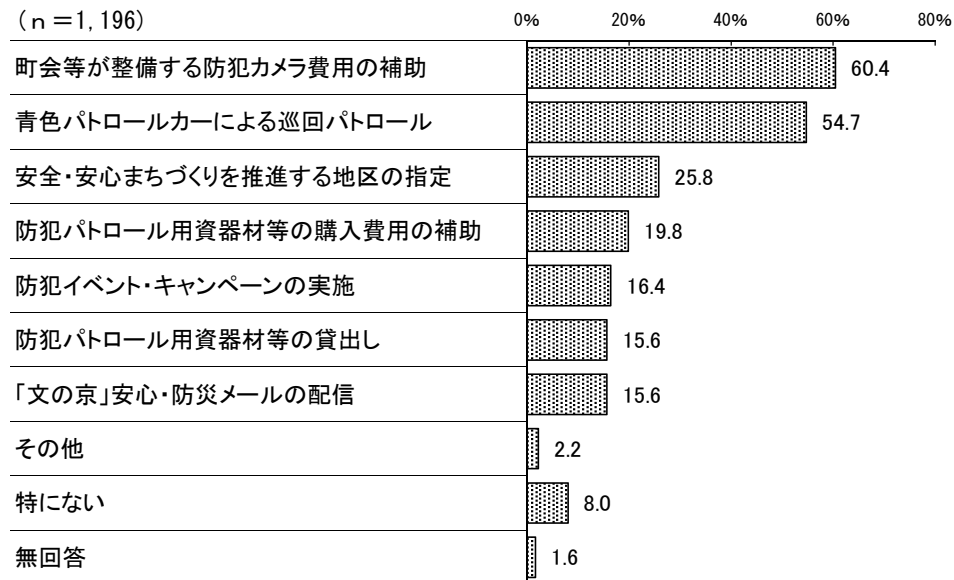
感震ブレーカーの設置状況についてたずねたところ、「設置している」(27.1%)は3割近く、「設置はしていないが、今後設置する予定である」(15.5%)は1割半ばとなっている。一方、「設置はしておらず、今後設置する予定はない」(48.2%)が5割近くを占めている。

(図4-4)

#### 4-5 今後力を入れてほしい防犯対策事業

問14 区が行っている次の防犯対策事業について、今後特に力を入れてほしいと思うものはどれですか。次の中からあてはまるものを3つまで選んで、下の欄に番号をご記入ください。

図4-5 今後力を入れてほしい防犯対策事業

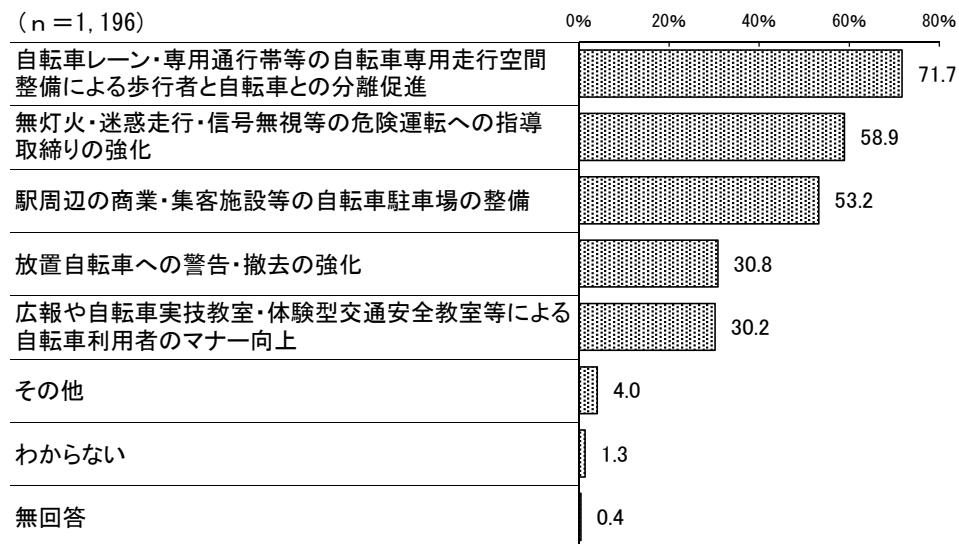


今後力を入れてほしい防犯対策事業についてたずねたところ、「町会等が整備する防犯カメラ費用の補助」(60.4%)が6割と最も多く、次いで「青色パトロールカーによる巡回パトロール」(54.7%)、「安全・安心まちづくりを推進する地区の指定」(25.8%)、「防犯パトロール用資器材等の購入費用の補助」(19.8%)などの順となっている。(図4-5)

#### 4-6 自転車の安全利用施策

問15 自転車の安全利用推進のためには、区はどのようなことを重点的に行うべきと考えますか。次の中からあてはまるものを3つまで選んで、下の欄に番号をご記入ください。

図4-6 自転車の安全利用施策



自転車の安全利用施策についてたずねたところ、「自転車レーン・専用通行帯等の自転車専用走行空間整備による歩行者と自転車との分離促進」(71.7%)が7割を超え最も多く、次いで「無灯火・迷惑走行・信号無視等の危険運転への指導取締りの強化」(58.9%)、「駅周辺の商業・集客施設等の自転車駐車場の整備」(53.2%)などの順となっている。(図4-6)

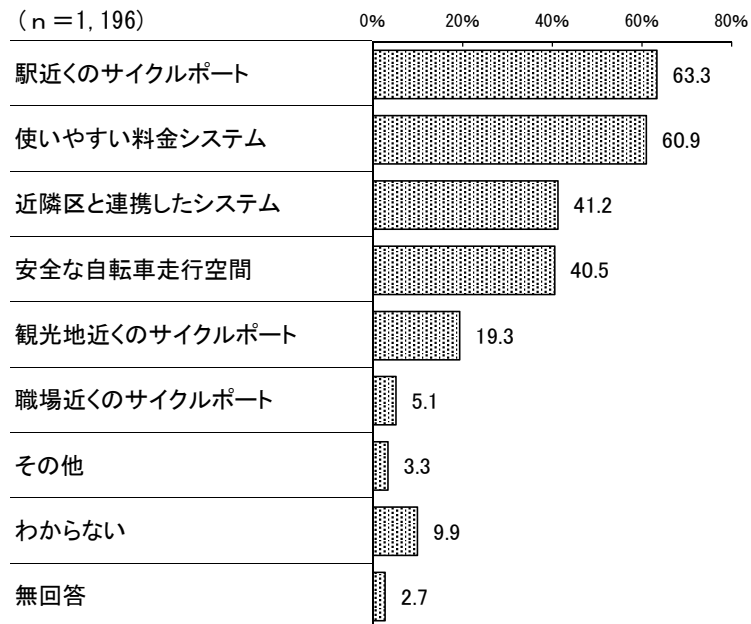
#### 4-7 シェアサイクル事業を行ううえで重要と思われること

問16 「シェアサイクル事業」を行ううえで、重要であると思われるものはどれですか。次の中からあてはまるものを3つまで選んで、下の欄に番号をご記入ください。

※「シェアサイクル事業」とは…

地域内に複数の専用のサイクルポート(自転車の貸出・返却拠点)を設置し、どのポートで自転車を借りてどのポートで返却してもよいシステムを構築した貸し自転車事業

図4-7 シェアサイクル事業を行ううえで重要と思われること

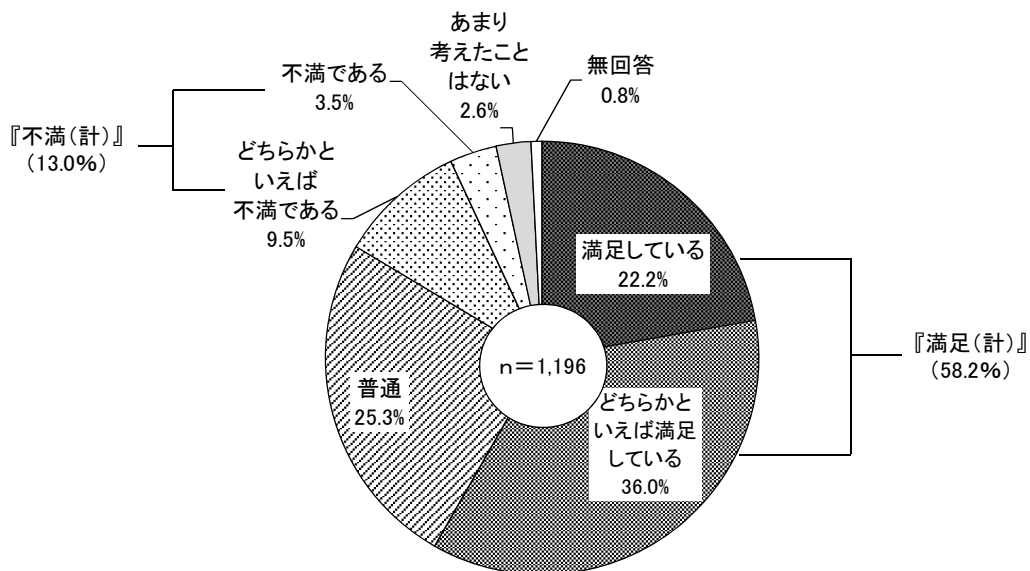


シェアサイクル事業を行ううえで重要と思われることについてたずねたところ、「駅近くのサイクルポート」(63.3%)が6割を超え最も多く、次いで「使いやすい料金システム」(60.9%)、「近隣区と連携したシステム」(41.2%)、「安全な自転車走行空間」(40.5%)などの順となっている。(図4-7)

#### 4-8 周辺地域のまち並み・景観に対する満足度

問17 あなたがお住まいの周辺地域のまち並み・景観について、どのように感じますか。  
(○は1つ)

図4-8 周辺地域のまち並み・景観に対する満足度

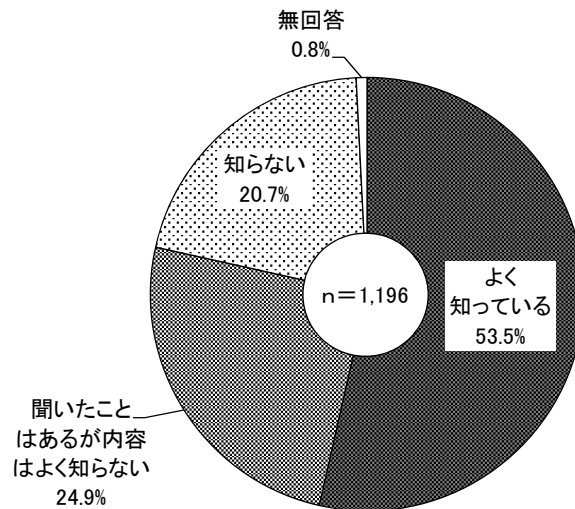


周辺地域のまち並み・景観に対する満足度についてたずねたところ、「満足している」(22.2%)、「どちらかといえば満足している」(36.0%)を合わせた『満足(計)』(58.2%)は6割近く、「普通」(25.3%)が2割半ばとなっている。一方、「どちらかといえば不満である」(9.5%)、「不満である」(3.5%)を合わせた『不満(計)』(13.0%)は1割台となっている。(図4-8)

#### 4-9 文京区歩行喫煙等の禁止に関する条例の認知度

問18 区では、平成21年4月1日から「文京区歩行喫煙等の禁止に関する条例」を施行し、区内の公共の場所(屋外に限る)における歩きタバコポイ捨て及び駅出入口前などの重点地域での路上喫煙を禁止しています。このことをご存じですか。(〇は1つ)

図4-9 文京区歩行喫煙等の禁止に関する条例の認知度



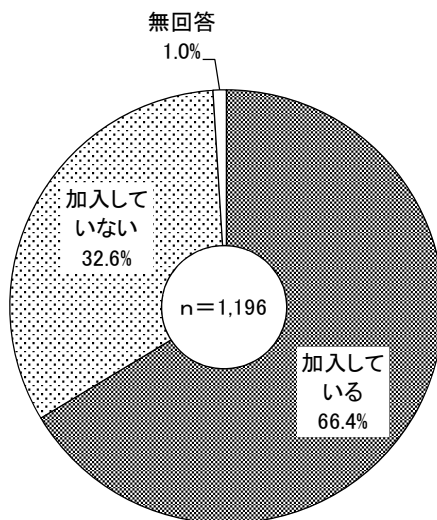
文京区歩行喫煙等の禁止に関する条例の認知度についてたずねたところ、「よく知っている」(53.5%)が5割を超えている。「聞いたことはあるが内容はよく知らない」(24.9%)が2割半ば、「知らない」(20.7%)が2割となっている。(図4-9)

## 5 コミュニティ

### 5-1 町会・自治会への参加状況

問19 あなたの世帯は、町会や自治会に加入していますか。(○は1つ)

図5-1 町会・自治会への参加状況



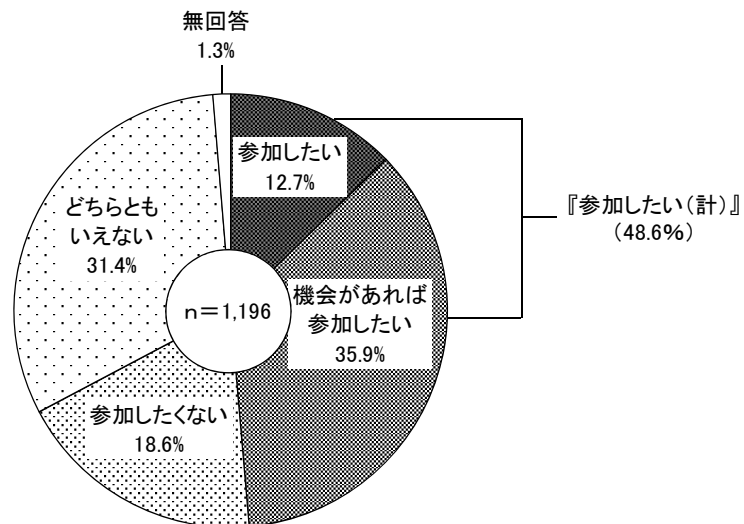
町会・自治会への参加状況についてたずねたところ、「加入している」(66.4%)は6割半ば、「加入していない」(32.6%)は3割を超えている。(図5-1)



## 5-2 町会・自治会活動への参加意向

問20 あなたは今後、町会や自治会活動に参加したいと思いますか。(○は1つ)

図5-2 町会・自治会活動への参加意向

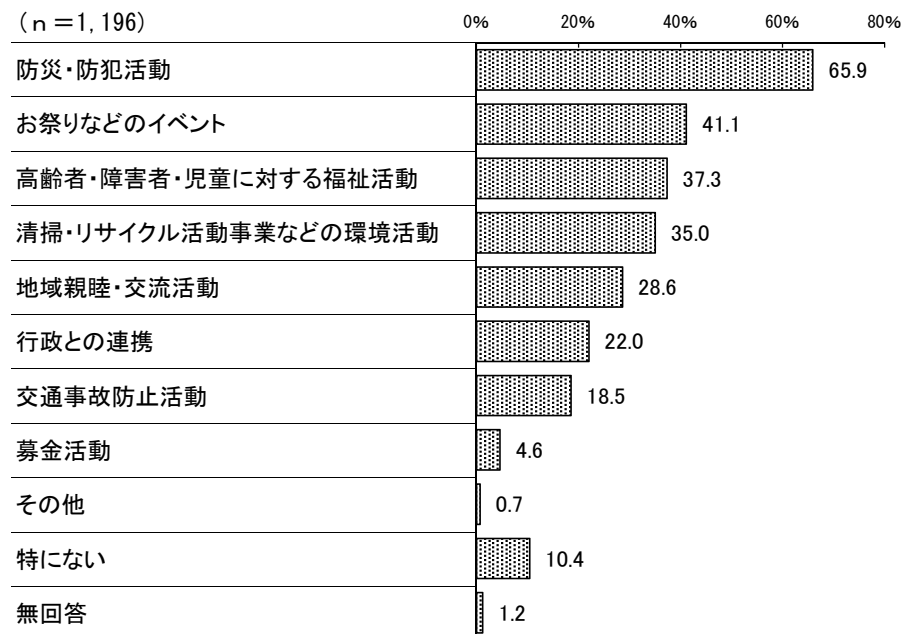


町会や自治会活動の参加意向についてたずねたところ、「参加したい」(12.7%)、「機会があれば参加したい」(35.9%)を合わせた『参加したい(計)』(48.6%)は5割近くとなっている。一方、「参加したくない」(18.6%)は2割近く、「どちらともいえない」(31.4%)がほぼ3割となっている。(図5-2)

### 5-3 町会・自治会に期待すること

問21 町会・自治会に期待する内容はどのようなことですか。  
次の中からいくつでもお選びください。(〇はいくつでも)

図5-3 町会・自治会に期待すること

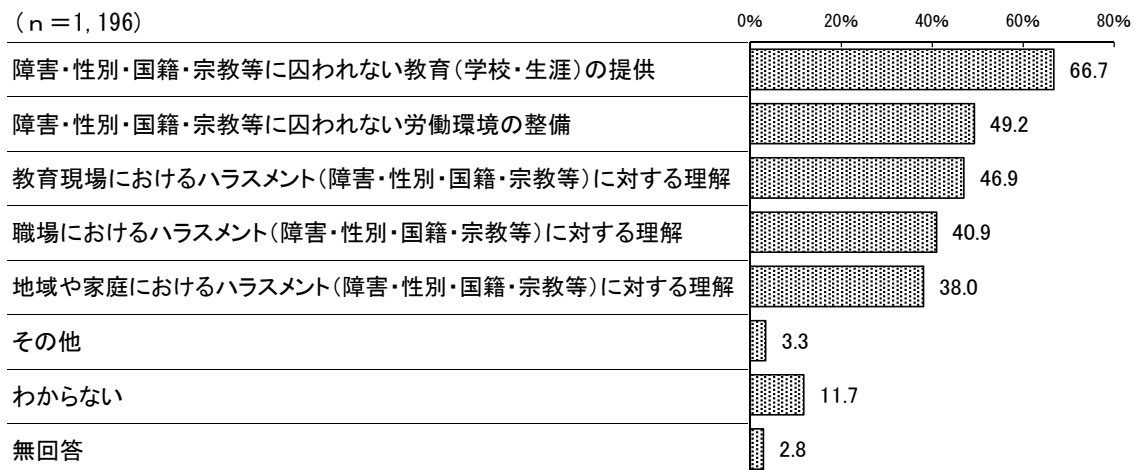


町会・自治会に期待することについてたずねたところ、「防災・防犯活動」(65.9%)が6割半ばと最も多く、次いで「お祭りなどのイベント」(41.1%)、「高齢者・障害者・児童に対する福祉活動」(37.3%)、「清掃・リサイクル活動事業などの環境活動」(35.0%)などの順となっている。(図5-3)

#### 5-4 国際化に対応していくために特に必要だと感じること

問22 多様な文化や考え方、性別や年代を超えた価値観が問われる現代社会において、国際化は言語だけでなく、社会や地域、教育現場や職場にもその必要性が求められています。今後、国際化に対応していくために特に必要だと感じることは何ですか。次の中からいくつでもお選びください。(〇はいくつでも)

図5-4 国際化に対応していくために特に必要だと感じること



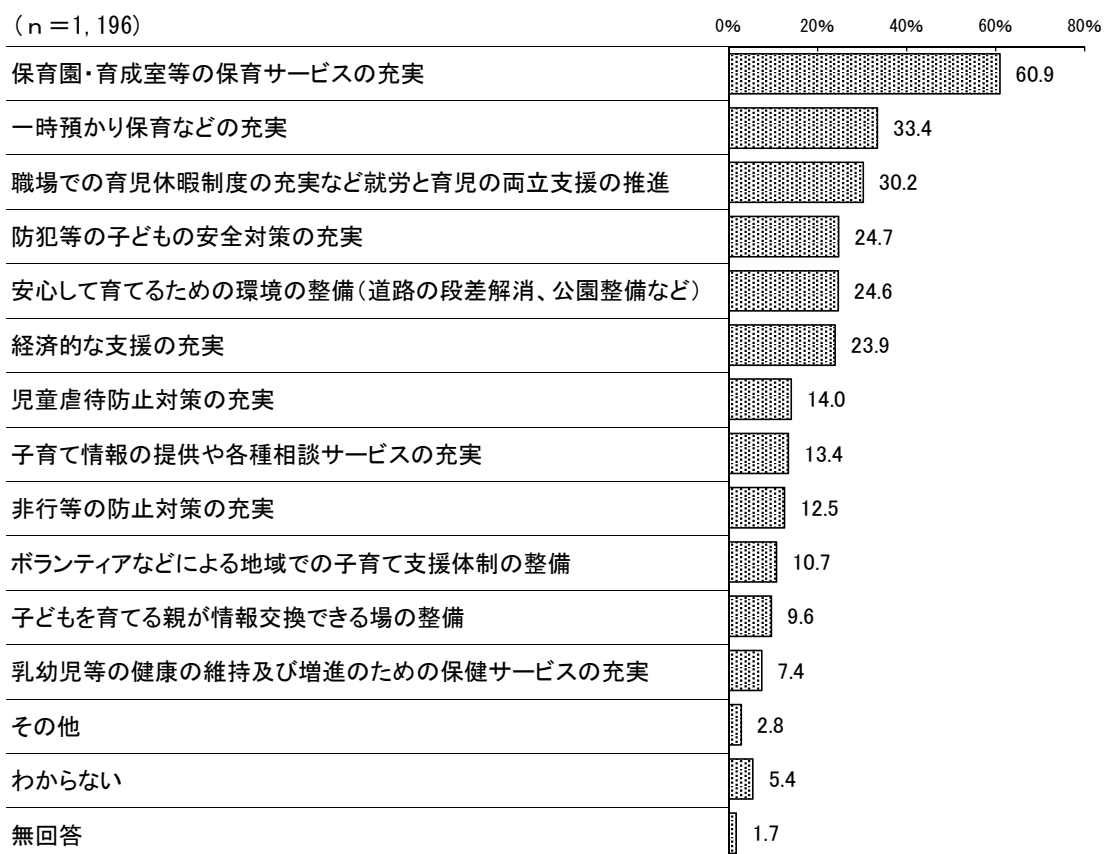
国際化に対応していくために特に必要だと感じることについてたずねたところ、「障害・性別・国籍・宗教等に囚われない教育(学校・生涯)の提供」(66.7%)が6割半ばと最も多く、次いで「障害・性別・国籍・宗教等に囚われない労働環境の整備」(49.2%)、「教育現場におけるハラスメント(障害・性別・国籍・宗教等)に対する理解」(46.9%)などの順となっている。(図5-4)

## 6 子育て・教育

### 6-1 子育て支援のために取り組むべき施策

問23 子育て支援策として、区はどのような施策を実施すべきと思いますか。  
次の中からあてはまるものを3つまで選んで、下の欄に番号をご記入ください。

図6-1 子育て支援のために取り組むべき施策

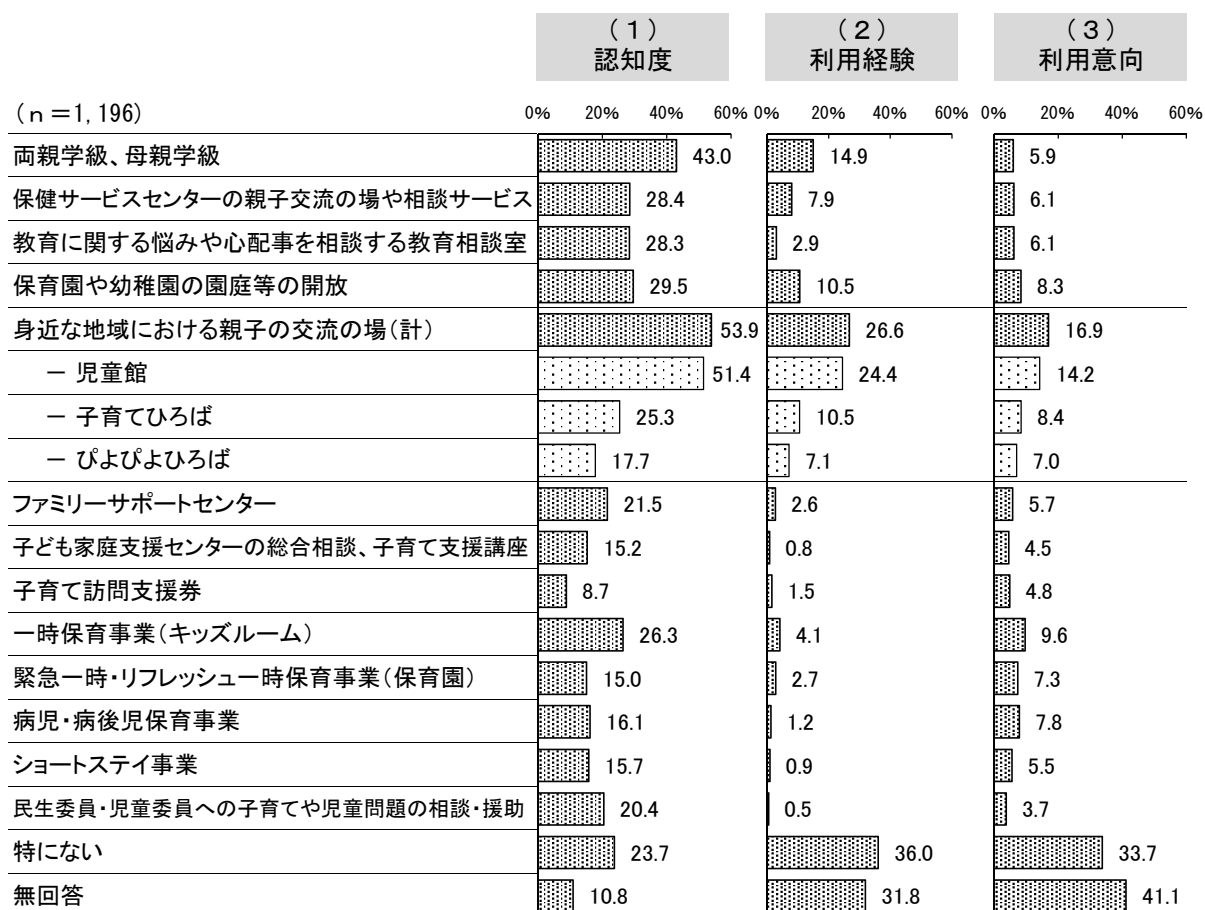


子育て支援のために取り組むべき施策についてたずねたところ、「保育園・育成室等の保育サービスの充実」(60.9%)がほぼ6割と最も多く、次いで「一時預かり保育などの充実」(33.4%)、「職場での育児休暇制度の充実など就労と育児の両立支援の推進」(30.2%)、「防犯等の子どもの安全対策の充実」(24.7%)、「安心して育てるための環境の整備(道路の段差解消、公園整備など)」(24.6%)、「経済的な支援の充実」(23.9%)などの順となっている。(図6-1)

## 6-2 子育て支援サービスの認知度・利用経験・今後の利用意向

- 問24 子育て支援サービスについてお伺いします。  
 次の(1)～(3)について、それぞれいくつでもお選びください。  
 (1)ご存知のサービスをすべてお選びください。(〇はいくつでも)  
 (2)利用したことがあるサービスをすべてお選びください。(〇はいくつでも)  
 (3)今後(今後も)利用したいサービスをすべてお選びください。(〇はいくつでも)

図6-2 子育て支援サービスの認知度・利用経験・今後の利用意向



子育て支援サービスの認知度についてたずねたところ、「児童館」(51.4%)がほぼ5割と最も多く、次いで「両親学級、母親学級」(43.0%)、「保育園や幼稚園の園庭等の開放」(29.5%)、「保健サービスセンターの親子交流の場や相談サービス」(28.4%)、「教育に関する悩みや心配事を相談する教育相談室」(28.3%)などの順となっている。

「児童館」、「子育てひろば」、「ぴよぴよひろば」のうちいずれかを知っているを合計した『身近な地域における親子の交流の場(計)』(53.9%)は5割を超えている。

利用経験については、「児童館」(24.4%)が2割半ばと最も多く、次いで「両親学級、母親学級」(14.9%)、「保育園や幼稚園の園庭等の開放」(10.5%)などの順となっている。

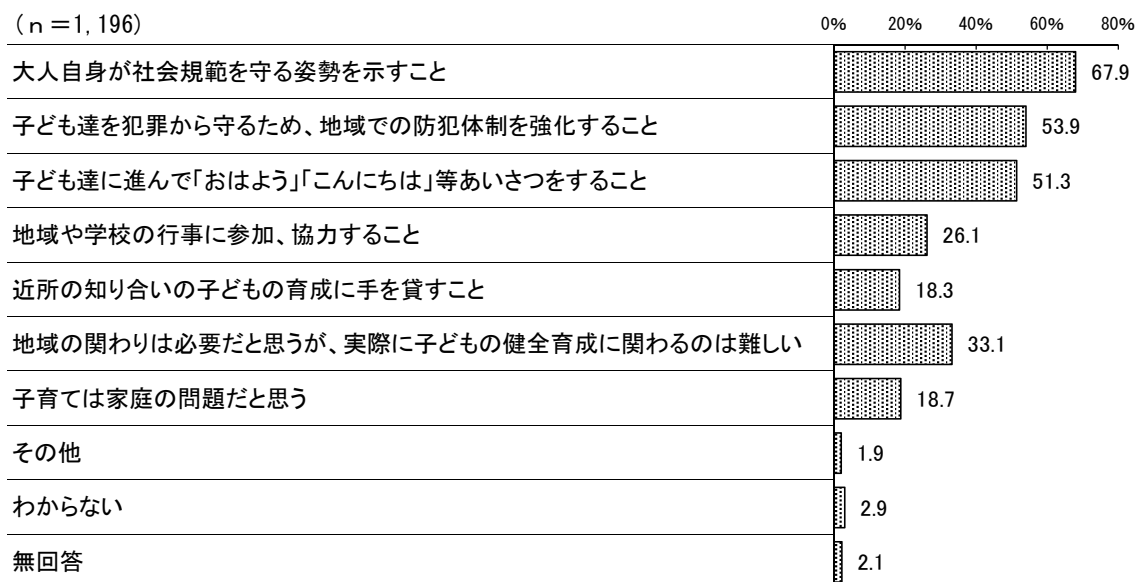
『身近な地域における親子の交流の場(計)』(26.6%)は2割半ばとなっている。

利用意向については、「児童館」(14.2%)が1割半ばと最も多く、次いで「一時保育事業(キッズルーム)」(9.6%)、「子育てひろば」(8.4%)、「保育園や幼稚園の園庭等の開放」(8.3%)、「病児・病後時保育事業」(7.8%)などの順となっている。「教育に関する悩みや心配事を相談する教育相談室」および「ファミリーサポートセンター」から「民生委員・児童委員への子育てや児童問題の相談・援助」は利用経験より利用意向の割合の方が多くなっている。(図6-2)

### 6-3 青少年健全育成に関して地域の大人たちが行うべきこと

問25 青少年健全育成に関して地域の大人たちができること、また、やるべきことは何だと思えますか。次の中からいくつでもお選びください。(〇はいくつでも)

図6-3 青少年健全育成に関して地域の大人たちが行うべきこと

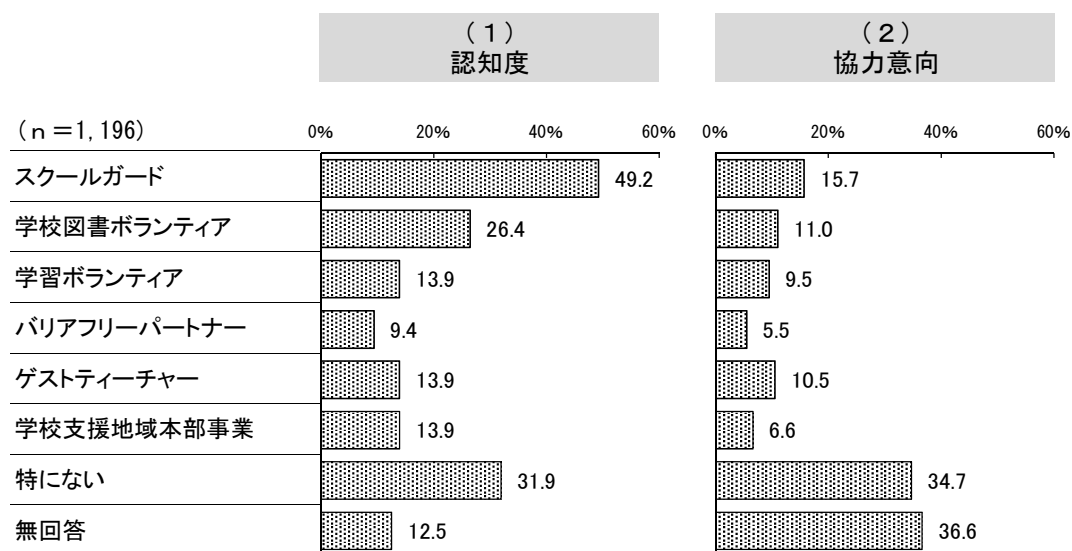


青少年健全育成に関して地域の大人たちが行うべきことについてたずねたところ、「大人自身が社会規範を守る姿勢を示すこと」(67.9%)が7割近くと最も多く、次いで「子ども達を犯罪から守るため、地域での防犯体制を強化すること」(53.9%)、「子ども達に進んで『おはよう』『こんにちは』等あいさつをすること」(51.3%)、「地域や学校の行事に参加、協力すること」(26.1%)などの順となっている。一方、「地域の関わりは必要だと思うが、実際に子どもの健全育成に関わるのは難しい」(33.1%)が3割を超え、「子育ては家庭の問題だと思う」(18.7%)が2割近くとなっている。(図6-3)

## 6-4 学校支援活動の認知度・今後の協力意向

- 問26 区立の小中学校では、次のような学校支援活動が実施されています。  
 次の(1)(2)について、それぞれいくつでもお選びください。  
 (1)ご存知の活動をすべてお選びください。(〇はいくつでも)  
 (2)今後(今後も)協力したい活動をすべてお選びください。(〇はいくつでも)

図6-4 学校支援活動の認知度・今後の協力意向



学校支援活動の認知度についてたずねたところ、「スクールガード」(49.2%)がほぼ5割と最も多く、次いで「学校図書ボランティア」(26.4%)、「学習ボランティア」(13.9%)などの順となっている。

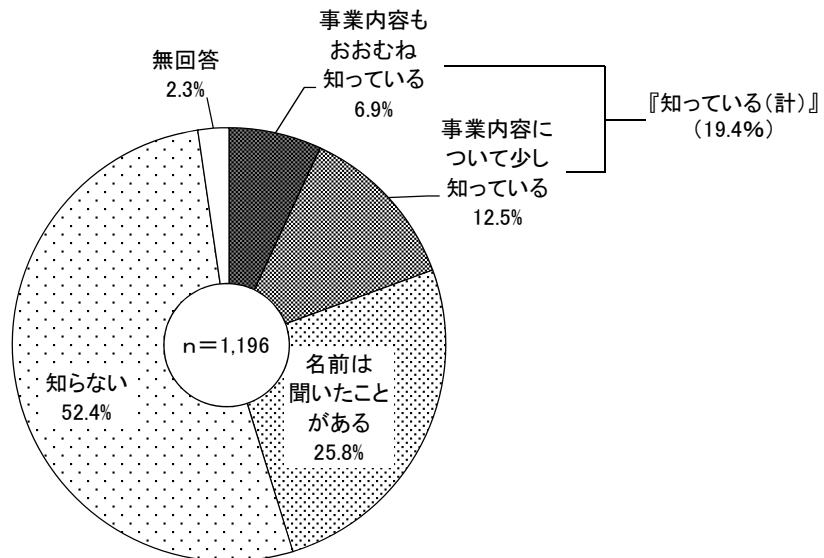
協力意向についてたずねたところ、「スクールガード」(15.7%)が1割半ば、「学校図書ボランティア」(11.0%)、「ゲストティーチャー」(10.5%)がほぼ1割となっている。一方、「特になし」が3割半ばとなっている。(図6-4)

## 7 高齢者

### 7-1 高齢者あんしん相談センターの認知度

問27 あなたは、地域における高齢者の相談窓口である、「高齢者あんしん相談センター（地域包括支援センター）」を知っていますか。（○は1つ）

図7-1 高齢者あんしん相談センターの認知度



高齢者あんしん相談センターの認知度についてたずねたところ、「事業内容もおおむね知っている」（6.9%）、「事業内容について少し知っている」（12.5%）を合わせた『知っている（計）』（19.4%）はほぼ2割、「名前が聞いたことがある」（25.8%）は2割半ばとなっている。一方、「知らない」（52.4%）は5割を超えている。（図7-1）

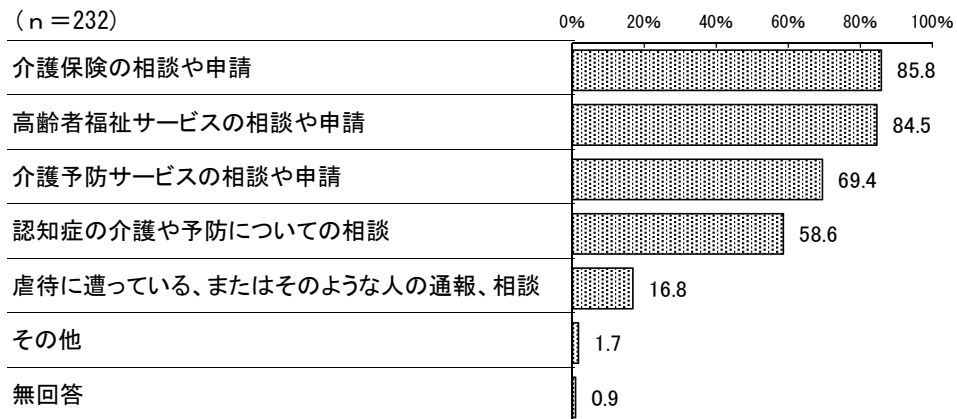


## 7-2 高齢者あんしん相談センターの認知事業内容

【問27で「1. 事業内容もおおむね知っている」または「2. 事業内容について少し知っている」と回答した方に】

問27-1 「高齢者あんしん相談センター(地域包括支援センター)」の事業内容について、知っているものをすべてお選びください。(〇はいくつでも)

図7-2 高齢者あんしん相談センターの認知事業内容



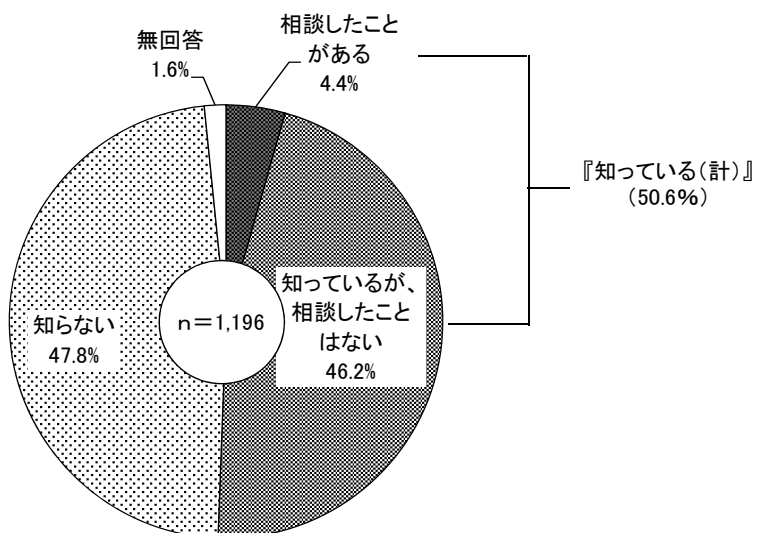
高齢者あんしん相談センターの事業内容について「事業内容もおおむね知っている」、「事業内容について少し知っている」と答えた方(232人)に、知っている事業内容をたずねたところ、「介護保険の相談や申請」(85.8%)、「高齢者福祉サービスの相談や申請」(84.5%)がともに8割半ばと多く、次いで「介護予防サービスの相談や申請」(69.4%)、「認知症の介護や予防についての相談」(58.6%)などの順となっている。(図7-2)

## 8 消費者相談

### 8-1 消費者相談コーナーの認知・利用状況

問28 あなたは、消費生活センターに「消費者と事業者との間に生じたトラブルを相談するコーナー」があることを知っていますか。(〇は1つ)

図8-1 消費者相談コーナーの認知・利用状況



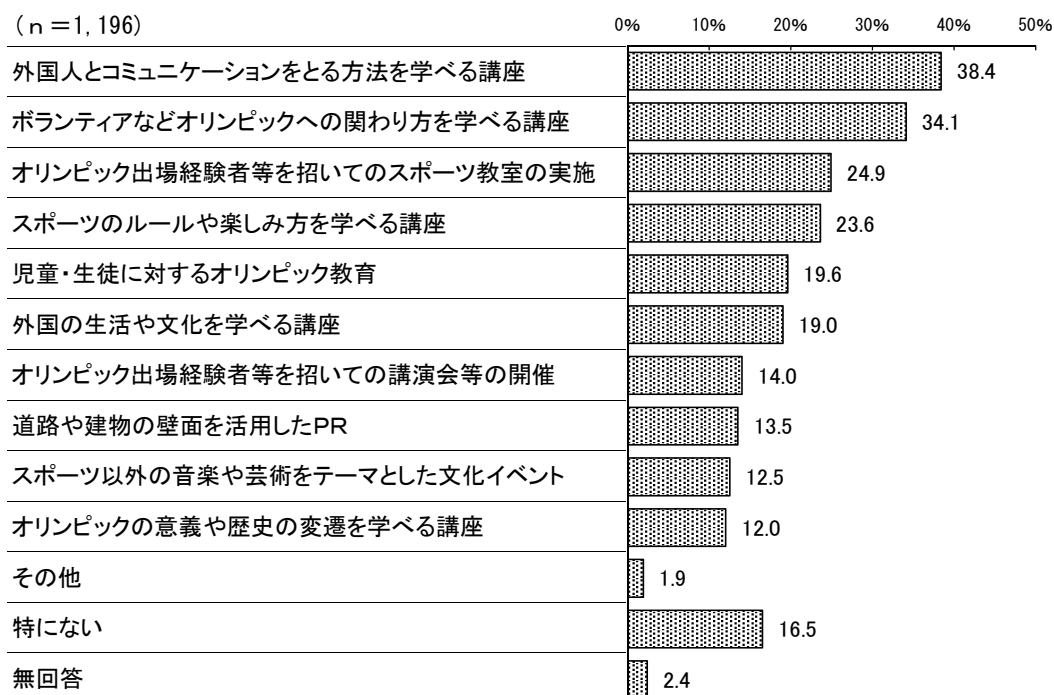
消費者相談コーナーの認知・利用状況についてたずねたところ、「相談したことがある」(4.4%)は5%未満となっており、「知っているが、相談したことはない」(46.2%)を合わせた『知っている(計)』(50.6%)はほぼ5割となっている。(図8-1)

## 9 文化・スポーツ振興

### 9-1 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて区民の関心・意識を高めるために期待する取組

問29 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、区民の関心と意識を高めるための取組として期待するものは何ですか。  
次の中からあてはまるものを3つまで選んで、右の欄に番号をご記入ください。

図9-1 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて  
区民の関心・意識を高めるために期待する取組

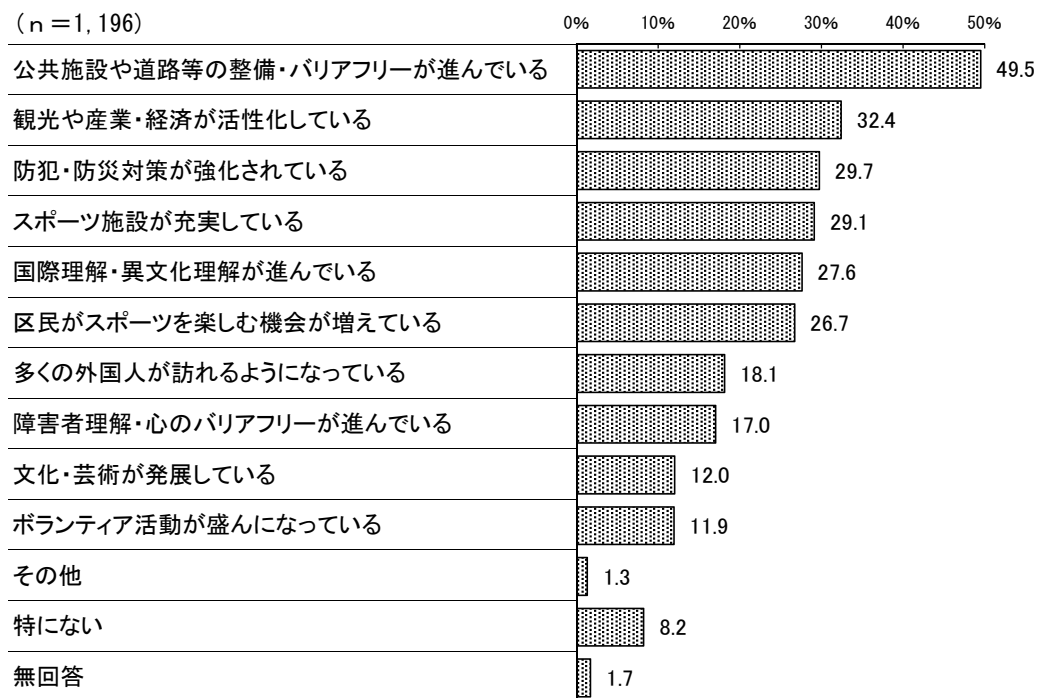


2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて区民の関心・意識を高めるために期待する取組についてたずねたところ、「外国人とのコミュニケーションをとる方法を学べる講座」(38.4%)が4割近くと最も多く、次いで「ボランティアなどオリンピックへの関わり方を学べる講座」(34.1%)、「オリンピック出場経験者等を招いてのスポーツ教室の実施」(24.9%)、「スポーツのルールや楽しみ方を学べる講座」(23.6%)などの順となっている。(図9-1)

9-2 2020年東京オリンピック・パラリンピック終了後に残るレガシー（遺産）として期待するもの

問30 2020年東京オリンピック終了後に残るレガシー(遺産)として、どのようなものを期待しますか。次の中からあてはまるものを3つまで選んで、右の欄に番号をご記入ください。

図9-2 2020年東京オリンピック・パラリンピック終了後に残るレガシー（遺産）として期待するもの

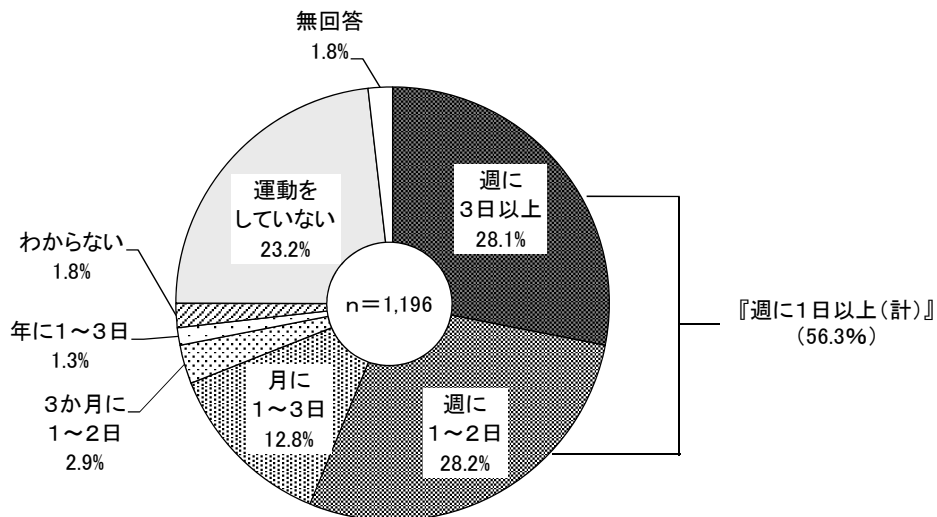


2020年東京オリンピック・パラリンピック終了後に残るレガシー（遺産）として期待するものについてたずねたところ、「公共施設や道路等の整備・バリアフリーが進んでいる」（49.5%）がほぼ5割と最も多く、次いで「観光や産業・経済が活性化している」（32.4%）、「防犯・防災対策が強化されている」（29.7%）、「スポーツ施設が充実している」（29.1%）、「国際理解・異文化理解が進んでいる」（27.6%）、「区民がスポーツを楽しむ機会が増えている」（26.7%）などの順となっている。（図9-2）

9-3 普段の運動頻度

問31 あなたは普段、どのくらいの頻度で運動(ウォーキングやラジオ体操を含む)をしていますか。  
(○は1つ)

図9-3 普段の運動頻度



普段の運動頻度についてたずねたところ、「週に3日以上」(28.1%)、「週に1~2日」(28.2%)がともに3割近くとなっており、合わせた『週に1日以上(計)』(56.3%)が5割半ばと半数を超えている。一方、「運動をしていない」(23.2%)は2割を超えている。

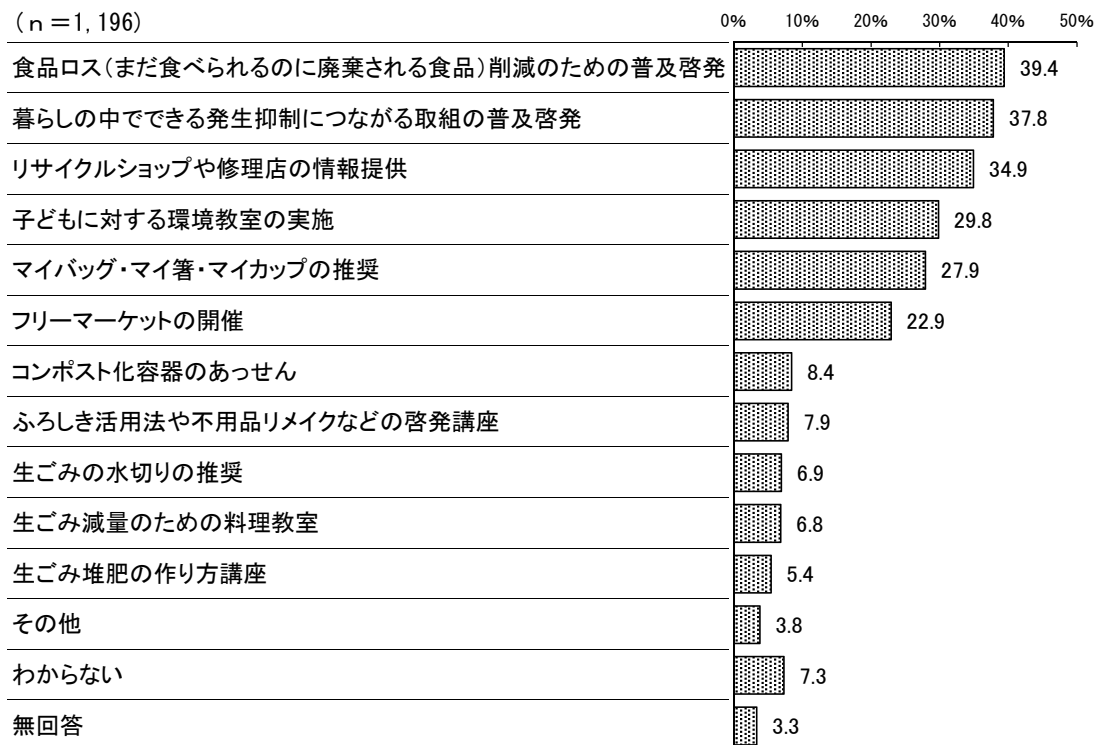
(図9-3)

## 10 循環型社会

### 10-1 「2R」推進のために区が重点的に行うべきこと

問32 区では循環型社会の実現に向けて、「2R(リデュース:発生抑制、リユース:再使用)」の取組をリサイクルに先立って推進していきます。「2R(リデュース:発生抑制、リユース:再使用)」推進のためには、区はどのようなことを重点的に行うべきと考えますか。次の中からあてはまるものを3つまで選んで、下の欄に番号をご記入ください。

図10-1 「2R」推進のために区が重点的に行うべきこと



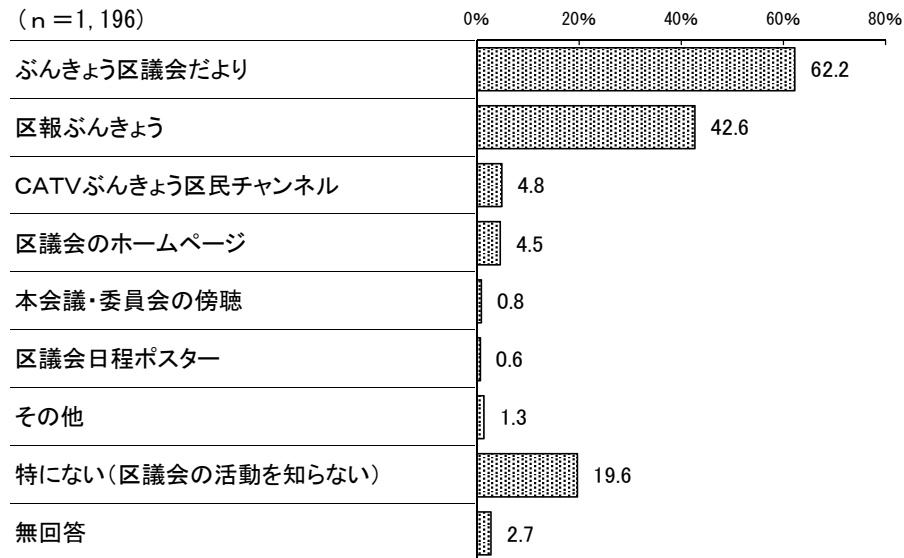
循環型社会の実現に向けた「2R」推進のために区が重点的に行うべきことについてたずねたところ、「食品ロス(まだ食べられるのに廃棄される食品)削減のための普及啓発」(39.4%)が4割近くと最も多く、次いで「暮らしの中でできる発生抑制につながる取組の普及啓発」(37.8%)、「リサイクルショップや修理店の情報提供」(34.9%)、「子どもに対する環境教室の実施」(29.8%)、「マイバッグ・マイ箸・マイカップの推奨」(27.9%)、「フリーマーケットの開催」(22.9%)などの順となっている。(図10-1)

## 11 議会

### 11-1 区議会活動の認知媒体

問33 あなたは、区議会の活動を、どのようにしてお知りになっていますか。  
次の中からいくつでもお選びください。(〇はいくつでも)

図11-1 区議会活動の認知媒体



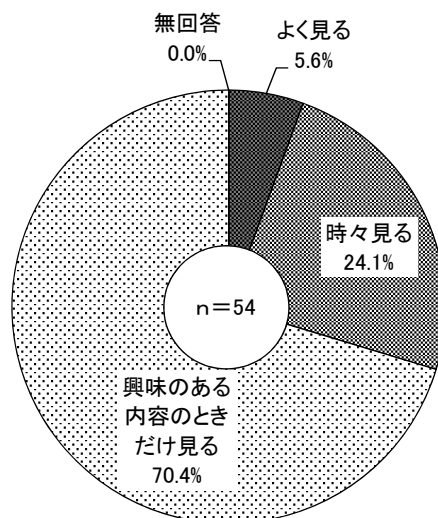
区議会活動の認知媒体をたずねたところ、「ぶんきょう区議会だより」(62.2%)が6割を超え最も多く、「区報ぶんきょう」(42.6%)が4割を超え次いでいるが、それ以外の項目は5%未満となっている。一方、「特にない(区議会の活動を知らない)」(19.6%)はほぼ2割となっている。(図11-1)

## 11-2 区議会のホームページの閲覧状況

【問33で「2. 区議会のホームページ」と回答した方に】

問33-1 あなたは、区議会ホームページをどの程度閲覧されていますか。(○は1つ)

図11-2 区議会のホームページの閲覧状況



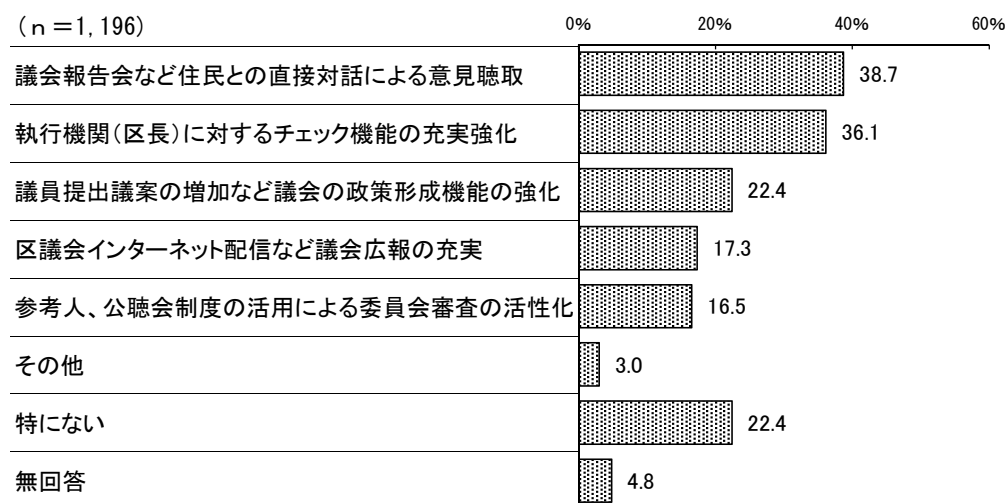
区議会活動の認知媒体について「区議会のホームページ」と答えた人（54人）に、区議会ホームページの閲覧頻度をたずねたところ、「よく見る」（5.6%）が1割未満、「時々見る」（24.1%）が2割半ば、「興味のある内容のときだけ見る」（70.4%）がほぼ7割となっている。（図11-2）



### 11-3 区議会の活動として期待すること

問34 地方議会の活性化や議会改革が求められています、区議会の活動として期待することはどれですか。次の中からいくつでもお選びください。(〇はいくつでも)

図11-3 区議会の活動として期待すること



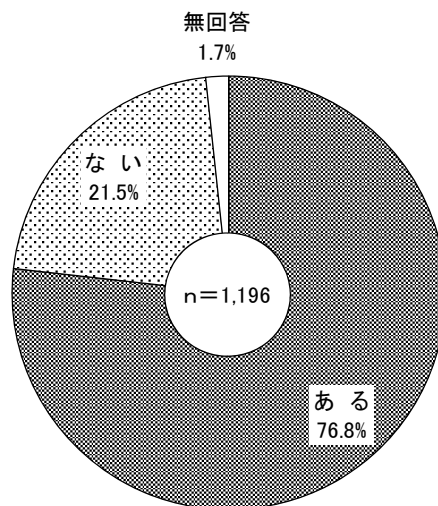
区議会の活動として期待することについてたずねたところ、「議会報告会など住民との直接対話による意見聴取」(38.7%)が4割近くと最も多く、次いで「執行機関(区長)に対するチェック機能の充実強化」(36.1%)、「議員提出議案の増加など議会の政策形成機能の強化」(22.4%)などの順となっている。(図11-3)

## 12 広聴

### 12-1 区役所本庁の窓口の利用状況

問35 あなたは、過去2年くらいの中に区役所本庁の窓口を利用したことがありますか。  
(○は1つ)

図12-1 区役所本庁の窓口の利用状況



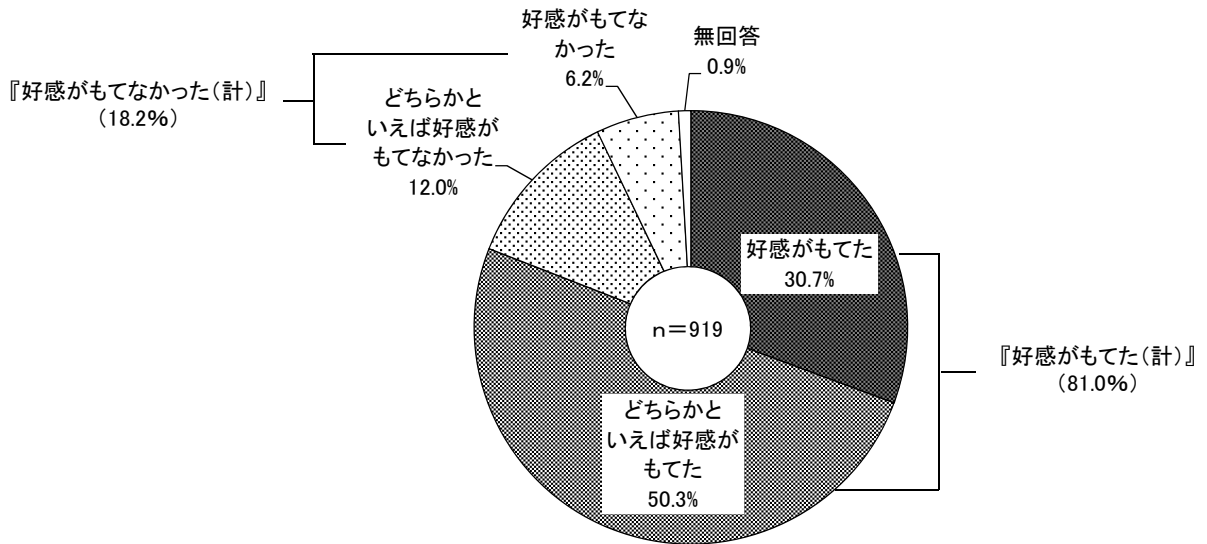
過去2年間の区役所本庁の窓口の利用状況についてたずねたところ、利用したことが「ある」(76.8%)が7割半ばを占めている。(図12-1)

## 12-2 区役所本庁窓口での対応職員の印象

【問35で「1. ある」と回答した方に】

問35-1 その時の職員の対応はいかがでしたか。(○は1つ)

図12-2 区役所本庁窓口での対応職員の印象



過去2年間に区役所本庁の窓口を利用したことが「ある」と答えた方(919人)に、区役所本庁窓口での対応職員の印象についてたずねたところ、「好感がもてた」(30.7%)が3割、「どちらかといえば好感がもてた」(50.3%)が5割となっており、合わせた『好感がもてた(計)』(81.0%)はほぼ8割となっている。一方、『好感がもてなかった(計)』(18.2%)は2割近くとなっている。(図12-2)



# 第23回 文京区政に関する世論調査 報告書 < 要約版 >

---

平成27年12月発行

印刷物番号 C0115009

- [ 発行 ] 文京区企画政策部広報課  
〒112-8555 文京区春日1丁目16番21号  
☎ 03 (5803) 1129 (直通)
- [ 実施 ] 株式会社総合企画  
〒111-0053 台東区浅草橋1丁目7番2号  
☎ 03 (5829) 6203

---

資源有効利用のため再生紙を使用しています。

